

# リアホサ



**幸福であるための  
最善の機会, 14 ページ**

新会員があなたに知ってほしい  
4つのこと, 22 ページ

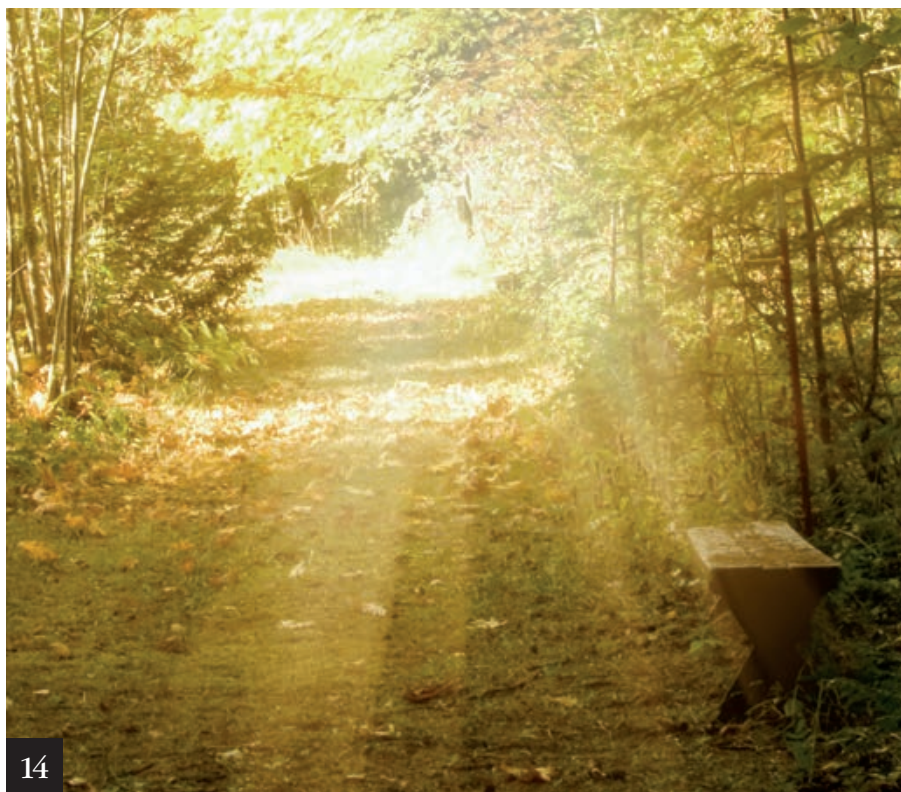
沈黙はなぜ言葉の戦いで  
敗れるのか, 28 ページ

娘の自殺の後, わたしのワードが  
どのようにわたしを  
救ってくれたか, 34 ページ



この静かな風景の向こうにクモラの丘が見える。古代アメリカにおいて、ニーファイ人の預言者モロナイは、彼の民の記録をこの丘に隠した。およそ 1,400 年後、モロナイは天使としてこの地の付近に戻り、記録のある場所を若きジョセフ・スミスに示した。ジョセフは後に記録を掘り出して翻訳した。その記録はモルモン書として知られることとなった。

写真/ジョージ・エドワード・アンダーソン、  
教会歴史図書館と記録保管庫の厚意により掲載



14

メッセージ

- 4 大管長会メッセージ——  
預言者——導く者として  
トーマス・S・モンソン大管長
- 7 家庭訪問メッセージ——  
心を一つに



表紙  
写真/レスリー・ニルソン

特集

- 14 幸福に至る福音の道  
ジェフリー・R・ホランド長老  
わたしたちはどのように幸福を「追求」しているのでしょうか。特に、登るのが困難な山のような人生を前にしているときは、どうでしょうか。
- 22 もっと上手にできる——  
人々を群れに歓迎する  
ベッツィー・バンデンバーク  
新会員や教会に戻ろうとしている会員が歓迎されていると感じられるように助ける4つの方法
- 28 信仰を擁護する  
ヨーク・クレビンガット長老  
イエス・キリストへの信仰を擁護するために、わたしたちが進んで行うことは何でしょうか。
- 34 娘の自殺後に救われて  
ル・エッタ・ソープ  
娘を自殺で失った後、わたしの精神的な傷は深いものでした。幸いにも、ワードの会員たちがそばにいて、立ち直れるよう世話をしてくれました。

シリーズ

- 8 2017年4月の大会ノート
- 10 救い主の方法で教える——  
愛とチョコレートケーキ——  
生徒を連れ戻すには？  
デビン・G・デュラント
- 38 信仰の肖像——カヨとアンソニー
- 40 末日聖徒の声
- 80 また会う日まで——  
モルモン書——驚くべき奇跡  
マーク・E・ピーターセン長老

来月号

2018年のメルキゼデク神権および扶助協会集会における変更についてお知らせします。



- 44 疑いがもたらす危険を克服する  
ウーゴ・モントヤ長老  
疑いや誘惑の取り巻く中にあって、わたしたちはどのように信仰を保てばよいのでしょうか。
- 48 音楽に関する実験  
マーセル・ホール  
とてもシンプルなおことがすべてを変え  
るということに気づきました。



こんげつごう なか かく  
今月号の中に隠れている  
リアホナをさが  
しましょう。  
ヒント——  
どんな大切な  
せんたく  
選択をしましたか。



- 50 飛行機が飛ぶ仕組み  
リチャード・M・ロムニー  
飛行機が福音とどう関係するの  
でしょうか？
- 52 あなたの証とモルモン書  
モルモン書によって人生が変わった  
3人の青少年の話を読んでみましょ  
う。
- 56 25の真理——モルモン書  
モルモン書はわたしたちの宗教の  
かなめ石です——なぜなのか調べて  
みましょう！
- 58 聖文——1日10分  
ハドリー・グリッグス  
聖文研究のゴールでつまづくのにうん  
ざりしていませんか。これを試してみ  
てください。
- 62 ポスター——  
押しつぶされそうですか？
- 63 そこが知りたい  
どうしたら誘惑に負けずにいられるで  
しょうか。愛する人が道を踏み外し  
そうなとき、どうしたらいいのでしょ  
うか。
- 64 教会指導者からの答え——  
聖霊を招くには  
ヘンリー・B・アイリング管長
- 65 わたしたちのスペース



- 66 総大会で数える  
総大会で聞こえてくるいろいろな言  
葉に注意をはらうために、楽しい方  
法があります！
- 67 キリストの絵  
テスラ・S  
テスラの友達に、特別なことのために  
じゅんぴをしていました——テスラも  
です。
- 68 ジェーンを選び  
ジェシカ・ラーセン  
ジェーンは真理をさがし求めていま  
した。見つけることはできるでしょ  
うか。
- 70 わたしたちのページ
- 71 教会歴史の登場人物——  
扶助協会の姉妹たちとノーブー神殿
- 72 使徒からの答え——  
どうすればあかしを強めることが  
できるでしょうか  
ロナルド・A・ラズバンド長老
- 73 火で遊ばない！  
ジーン・B・ビンガム  
きけんなもので遊んだら、けがをしま  
すよ！
- 74 神様のすべての子供たち  
ジュリー・コーネリウス・ホアング  
イレンはおじいちゃんの教会に初め  
て行きました。でもそこは、これまで  
に見たどの教会ともちがいました。
- 76 イエスのお話——心やさしいイエス  
キム・ウェブ・リード
- 79 色をぬりましょう——  
わたしは親切になることができます

### インターネットで得られる追加情報



記事を読み、投稿してみましょう。

liahona.lds.org

靈感あふれるメッセージを以下で見つけましょう。

(英語, ポルトガル語, スペイン語)  
facebook.com/liahona

ご意見・ご提案は以下までお寄せください。

liahona@ldschurch.org

購読を申し込みましょう。  
store.lds.org

配送センターに行くことや、ワードの指導者に聞くこともできます。  
1-800-537-5971 に電話もできます(アメリカとカナダ)。

リアホナ/GETTY IMAGES

### 今月号に採り上げられているテーマ

数字は記事の最初のページを表します。

- |                         |                        |                               |
|-------------------------|------------------------|-------------------------------|
| 愛, 7, 10, 14, 34        | 幸福, 14, 34             | 伝道活動, 10                      |
| 証, 72                   | 死, 34, 40              | 天の御父, 28, 48, 50, 63, 64      |
| イエス・キリスト, 7, 14, 44, 56 | 従順, 73                 | 難民, 65                        |
| 依存症, 42                 | 信仰, 28, 41, 44, 63, 64 | 働く, 14                        |
| 一致, 7, 22               | 親切, 14, 22, 34, 76, 79 | 奉仕, 7, 10, 34, 65, 67, 72     |
| 祈り, 52, 64, 72          | 聖文, 52, 56, 58, 72     | モルモン書, 42, 43, 52, 56, 58, 80 |
| 疑い, 44                  | 聖霊, 7, 64, 73          | 勇気, 28, 44, 63, 68            |
| 教え, 10                  | セミナー, 65               | 預言者, 4                        |
| 改心, 22, 38, 52, 68      | 前世, 28                 |                               |
| 活発化, 10, 22, 34         | 選択の自由, 14, 28, 68      |                               |
| 悔い改め, 63, 73            | 総大会, 4, 66             |                               |
|                         | 他の宗教, 67, 74           |                               |



トーマス・S・  
モンソン大管長

## 預言者——導く者として

**数**年前のこと、わたしは大管長会と十二使徒定員会が週に1度集まるソルトレーク神殿の部屋で、椅子に腰掛けていました。大管長会の席に面した壁を見上げ、そこに掲げられた教会の歴代大管長の肖像に、見入っていたのです。

預言者ジョセフ・スミス(1805 - 1844年)からゴードン・B・ヒンクレイ大管長(1910 - 2008年)に至るまで、わたしの前任者たちを見詰めながら、こう思いました。「この大管長一人一人の導きに、わたしはどれほど感謝していることだろう。」

決して揺らぐことも、ひるむことも、諦めることもなかった偉大な人々——皆、神の人です。わたしがよく知り、愛してきた現代の預言者たちについて考えると、彼らの生涯、特質、その靈感あふれる教えが思い出されます。

ヒーバー・J・グラント大管長(1856 - 1945年)は、わたしが生まれた当時の大管長でした。その生涯と教えについて思いをはせると、グラント大管長がどんなときにも体現してきた特質は、強固な精神であったと思います。善と高潔さを固く守り抜く人でした。

ジョージ・アルバート・スミス大管長(1870 - 1951年)は、わたしがソルトレーク・シティーのワードでビショップとして奉仕していたころの大管長でした。スミス大管長は、主とサタンとの間で繰り広げられる大いなる戦いを目にし、次のように教えました。「もし主の側にとどまれば、あなたたちは主の影響を受け、悪いことをしようなどとは思わない。」<sup>1</sup>

1963年のこと、わたしはデビッド・O・マッケイ大管長(1873 - 1970年)により、十二使徒定員会の会員として奉仕するよう召されました。その生き方を通して思いやりを

教えたマッケイ大管長は、このような言葉を残しています。「真のキリストの教えは愛を行動で表すことです。」<sup>2</sup>

ジョセフ・フィールディング・スミス大管長(1876 - 1972年)は、教会で最も多くの著作を残した一人であり、福音を学び続けることを生涯の指針としていました。スミス大管長はたゆむことなく聖文を読み、わたしの知るだれよりも聖文の教えと教義に精通していました。

ハロルド・B・リー大管長(1899 - 1973年)は、わたしの少年時代のステーク会長でした。リー大管長が好んで引用したのは、この聖句です。「あなたがたは聖なる場所に立ち、動かされないようにしなさい。」<sup>3</sup>リー大管長は、聖霊のささやきに波長を合わせ、すぐに従うよう聖徒たちに勧めました。

スペンサー・W・キンボール大管長(1895 - 1985年)がその生涯において指針としてきた原則は、献身であると思います。キンボール大管長は全身全霊をかけて、確固として主に献身し、福音に従って生きることに生涯をささげました。

エズラ・タフト・ベンソン大管長(1899 - 1994年)が教会の大管長になったとき、わたしは大管長会第二顧問として奉仕するよう召されました。ベンソン大管長にとって指針となった原則は、愛でした。それはベンソン大管長が好んで引用した、救い主の次の言葉に集約されています。「あなたがたはどのような人物であるべきか。まことに、あなたがたに言う。わたしのようでなければならない。」<sup>4</sup>

ハワード・W・ハンター大管長(1907 - 1995年)は、いつでも人々が持つ最良の特質を見いだす人であり、常に礼儀正しく、謙虚な人でした。ハンター大管長の第二顧問として



回復されたイエス・キリストの教会がこの地上にあり、その教会が啓示の岩の上に立てられていることは、わたしたちにとってどれほどの祝福でしょうか。絶えることのない啓示は、イエス・キリストの福音において根幹を成すものです。

わたしたちがよく備え、総大会を通して豊かに注がれる個人の啓示を受けることができますように。挙手をもって生ける預言者と使徒への支持を表すとき、その心が確固とした決意に満たされますように。彼らの言葉に耳を傾けるときに、思いが照らされ、高められ、慰めを受け、強められますように。主イエス・キリスト、すなわち主の福音とその業に対する決意を新たにする心構えができますように。またその新たな決意をもって主の戒めを守り、主の御心<sup>みこころ</sup>を行う心構えができますように。■

#### 注

1. 『歴代大管長の教え——ジョージ・アルバート・スミス』191
2. 『歴代大管長の教え——デビッド・O・マッケイ』181
3. 教義と聖約 87:8
4. 3 ニーファイ 27:27

奉仕することは、わたしにとって特権でした。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長は、最善を尽くすよう教えました。救い主とその使命について力強い証<sup>あかし</sup>を述べ、愛をもってわたしたちを教えました。ヒンクレー大管長の第一顧問として奉仕したことは、わたしにとって名誉で

あり、祝福です。

救い主が預言者を遣わしてくださるのは、わたしたちを愛しておられるからです。この10月の総大会の間、教会の中央幹部は、再び主の言葉を皆さんと分かち合う特権にあずかります。わたしたちはへりくだり、厳粛にこの責任に向き合います。

#### このメッセージから教える

**モ**ンソン大管長は、前任の預言者たちから学んだ力強い教訓について分かち合い、「救い主が預言者を遣わしてくださるのは、わたしたちを愛しておられるからです」と思い起こさせてくれました。あなたが教える人々を導くに当たって、預言者と使徒はどのような点で、わたしたちに対する神の愛のしるしで

あるのかを話し合うとよいでしょう。モンソン大管長の過去の総大会説教から学べる勧告を分かち合うこともできます。特に靈的に高められ、救い主の愛を感じる助けとなった説教を振り返り、総大会に備えるよう勧めてください。



## 感謝を神に捧げん



「感謝を神に捧げん」の曲は  
[lds.org/music/library/hymns?lang=eng&clang=jpn](https://lds.org/music/library/hymns?lang=eng&clang=jpn) から  
 ダウンロードすることができます。

**わ** たしたちの預言者トーマス・S・モンソン大管長から、あなたはどのような影響を受けてきましたか。モンソン大管長について一番心に残っていることは何でしょうか。今回のメッセージで、モンソン大管長は自分の記憶に残っている一人一人の預言者から受けた影響について

つづっています。同じように、モンソン大管長とその生涯について日記に書くとよいでしょう。

また、モンソン大管長の言葉から好きなものを選び、学校用のバインダーや家で使うノートなど、いつも目につく所に書き出しておくともよいかもしれません。携

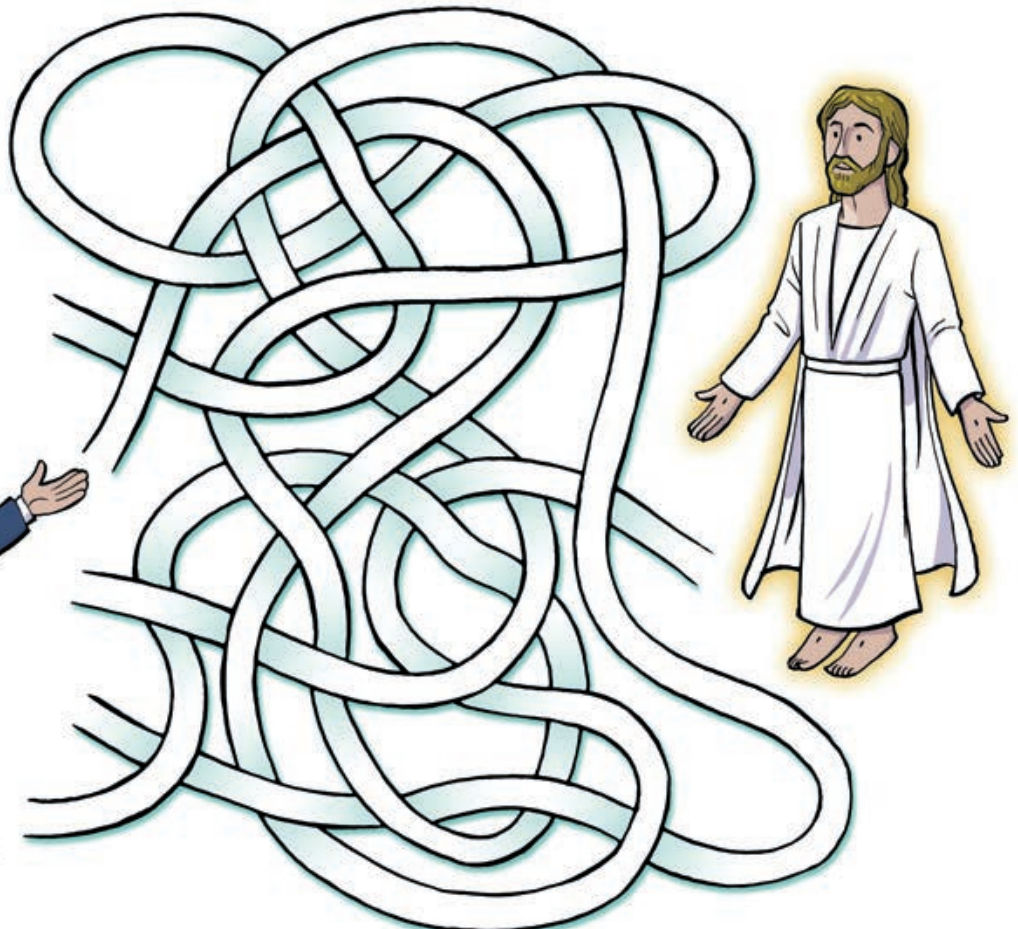
帯電話の壁紙にすることもできます。その言葉を見る度に、生ける預言者の大切さについて考え、今日モンソン大管長がわたしたちを愛し、導くためにいることを心に留めることができるでしょう。

写真：ヘキシー・マリー・フロレス

## 子供

### 預言者は わたしたちを キリストのもとへ みちびきます

**救** い主が預言者をあ  
 たえてくださるのは、わたしたちを愛しておられるからです。預言者にしたがうと、正義を選びやすくなります。子供たちが預言者にしたがうには、どの道を選べばよいでしょうか。



イラスト：アダム・コロナー



## 心を一つに

よく祈りながらこの資料を学び、  
何を伝えるべきか分かるよう  
靈感を求めてください。  
扶助協会の目的を理解することで、  
神の娘たちはどのように  
永遠の命の祝福へと  
備えられるでしょうか。

「主はその民をシオンと呼ばれた。彼らが心を一つにし、思いを一つにし、義のうちに住んだからである。そして、彼らの中に貧しい者はいなかった。」（モーセ7:18）どうすれば心を一つにすることができるでしょうか。

十二使徒定員会のM・ラッセル・バラード長老は次のように述べています。「英語で『贖罪』に当たる“*atonement*”という言葉の中心には“*one*”すなわち一人という言葉があります。もし全人類がこのことを理解したなら、年齢や人種、性別、宗教、または社会的、経済的な地位にかかわらず、すべての人を気にかけるようになるでしょう。救い主を見習うようになり、不親切や無関心、無礼や無神経な態度がなくなることでしょう。」<sup>1</sup>

大管長会第一顧問のヘンリー・B・アイリング管長はこのように教えています。「人々が御霊とともにいると、調和を期待することができます。……神の御霊は決して争いを起こしません（3ニーファイ11:29参照）。……むしろ平安と一体



信仰  
家族  
扶助

感へと導きます。」<sup>2</sup>

家族にかかわる試練について、中央扶助協会会長会第一顧問として奉仕したキャロル・M・スティーブズ姉妹は次のように語りました。「わたしは、離婚の経験や、見捨てられて苦しみ、不安を抱いた経験や、ひとり親の責任を負うといった経験はありませんでした。子供を亡くしたことや、子供を授からなかったこと、同性に引かれたこともありません。虐待や慢性病、依存症に堪えなければならぬこともありませんでした。そうしたことはわたしにとっての、成長の機会ではなかったのです。

……でも、……わたし個人の試練や試しを通して、あの御方をよく知るようになりました。……それに、先ほど挙げた地上での試練をわたしはすべて、

娘、母、祖母、姉妹、おば、友人の立場として経験しました。

神の聖約を守る娘として与えられる機会は、自分の試練から学ぶことだけではありません。……苦しんでいるほかの神の家族を支えるために、共感と思いやりの心で一致する機会でもあるのです。」<sup>3</sup>

### そのほかの聖句と資料

ヨハネ17:20-23; エペソ4:15;  
モーサヤ18:21-22; 4ニーファイ1:15  
[lds.org/callings/relief-society?lang=jpn](https://lds.org/callings/relief-society?lang=jpn)

### 注

1. M・ラッセル・バラード「贖罪と一人の価値」『リアホナ』2004年5月号、86参照
2. ヘンリー・B・アイリング「わたしたちが一つになれるように」『聖徒の道』1998年7月号、71
3. キャロル・M・スティーブズ「神様からの家族」『リアホナ』2015年5月号、11-12参照



考えてみましょう

互いに  
一致することは、  
わたしたちが神と  
一つになるうえで  
どのような助けと  
なるでしょうか。

# 2017年4月の大会ノート

「主なるわたしが語ったことは、わたしが語ったのであ〔る。〕……わたし自身の声によろうと、わたしの僕<sup>しもべ</sup>たちの声によろうと、それは同じである。」(教義と聖約1:38)

2017年4月の総大会を振り返る際に、このページ(および今後の大会ノート)を使って、生ける預言者と使徒、ほかの教会指導者が語った最近の教えを学び、生活に取り入れることができます。



教義的な重要点

## 神会

「わたしたちには、神会について、またわたしたちと神会の方々との関係、人生の目的、人の永遠の行く末の本質についての真理があります。つまり、現世を旅するための究極の地図と確信があるのです。わたしたちはどなたを、なぜ礼拝するのかを知っています。わたしたちが何者であり、どのような者になれるのかを知っています(教義と聖約93:19参照)。このすべてを可能にくださった御方を知っており、神の救いの計画を通して与えられる究極の祝福を享受するために何をしなければならないかを知っています。このすべてを知っているのはなぜでしょうか。神が預言者とわたしたち一人一人に啓示を与えてくださるからです。」

十二使徒定員会 ダリン・H・オークス長老  
「神会と救いの計画」  
『リアホナ』2017年5月号、102 - 103

## 預言者の約束



### 天の力を 祈り求める

「聖文で教えられているように、義になつた神権の行使は、思いやりと慈愛と愛の原則に従って生活することにかかっています。……

自らの生き方を吟味し、思いやりと愛と慈愛のある人になることによって救い主の模範に従おうと決意してください。そうするとき、自分自身や家族、そして時折困難に遭いながら天の家に帰るための旅路を歩んでいる仲間のために、天の力を祈り求めることがさらに容易になります。」

トーマス・S・モンソン大管長  
「思いやり、慈愛、愛」  
『リアホナ』2017年5月号、66, 67

総大会説教を読んだり、見たり、聴いたりするには、[lds.org/general-conference?lang=jpn](https://lds.org/general-conference?lang=jpn) にアクセスしてください。



### キリストを 中心に置く

『心をつくして主に信頼せよ、自分の知識にたよってはならない。』〔箴言3:5-6〕

『たよる』に当たる英語の言葉『lean』には、物理的に『傾く』とか、『片方に寄る』という意味があります。物理的に片側に寄ると、わたしたちは中心から離れ、バランスを崩して倒れます。霊的に自分の考えに傾くと、

救い主から心が離れてしまいます。

……わたしたちは皆、主に信頼し、自分の知識に頼らないようにすることができます。救い主を知ることによって主を生活の中心に置くことができるようになり、主はわたしたちの道を導いてくださいます。」

中央初等協会会長第一顧問 ポニー・H・コードン  
「主に信頼し、傾かない」  
『リアホナ』2017年5月号, 6, 9

## だれの言葉でしょうか

1. 「罪人をとがめる独善的な人よりも、悔い改めた罪人が神に近づくと、わたしたちへのメッセージは明快なものです。」
2. 「警告の声を上げるように促すのは、愛、すなわち神への愛と同胞への愛です。警告することは気遣うことです。」
3. 「神の愛がだれもが知る歌のメロディーだとしたら、神に従おうとするわたしたち全員の努力は、美しいハーモニーを生み出すためにどうしても不可欠〔です〕。」
4. 「かつて、青少年が自分の先祖の名前を神殿に持って来るのはまれで、喜ばしい異例の出来事でした。現在では、それも珍しくなくなり〔ました〕。」

ἠὺν ἰδοὺ ἡμεῖς ἠκούσαμεν (ヤ)

ἠὺν ἰδοὺ ἡμεῖς ἠκούσαμεν (エ)

ἠὺν ἰδοὺ ἡμεῖς ἠκούσαμεν (シ)

ἠὺν ἰδοὺ ἡμεῖς ἠκούσαμεν (リ)

—— 天啓

## 類似点を見つける

### 真の弟子

時折、複数の話者が同じ福音のテーマで話すことがあります。次に挙げるのは、3人の話者がキリストの真の弟子となることについて語ったことです。彼らが話したことを読むには、2017年5月号を用いるか、conference.lds.orgをご覧ください。

- 「イエス・キリストのまことの弟子は、自分の立場を明確にし、率直に語り、世の人々と一線を画すことにためらいを感じません。臆することなく、献身的で勇気があります。」——ラッセル・M・ネルソン「イエス・キリストの力を生活に入れる」40-41
- 「真の弟子が意味するのは、……自らの人格にキリストの特質を織り込み、霊のタペストリーを作るように生活〔することです〕。」——ロバート・D・ヘイルズ「主イエス・キリストの弟子となる」46
- 「安息日を愛するわたしたちの思いは、集会所のドアを出るときに終わるのではなく、むしろ、そのとき新たなドアが開くのです。それは、日常作業を離れ、学び、祈り、助けが必要な家族やほかの人々に手を差し伸べるすばらしい一日に続くドアです。」——ニール・L・アンダーセン「世に打ち勝つ」59



## 愛とチョコレートケーキ —— 生徒を連れ戻すには？

中央日曜学校会長会第一顧問  
デビン・G・デュラント

**バ**バタ・ソンネンバーグ姉妹はがっかりしました。8歳未満の娘が5人いる若い母親なので、ワードの16歳から17歳の日曜学校のクラスの教師に召されたことには驚きました。そして、この召しを数か月果たして分かったのは、生徒の出席は不定期で、クラスはいつも閑散としているということでした。姿を見せたのは男子生徒が一人だけという日曜日もありました。一人だけ教えるよりはと思って、ほかのクラスと合同にしました。もうお手あげでした。しかし、このやるせない状況について深く考えて祈ると、靈感を受けて考え方が変わったのです。

### 連携して取り組む

夫のケンワードはワード伝道主任でした。二人は、力を合わせてワードの青少年に働きかけるようにという促しを感じました。そこで、彼女はチョコレートケーキを作り、夫はワードの若い人たちを毎週日曜日の夜に家に呼んで、

ケーキを食べながら伝道の備えについて話し合いました。10代の若者たちが手作りのケーキを食べている間、ソンネンバーグ姉妹は彼らを日曜学校のクラスに誘いました。

この「甘い」誘いの結果、日曜学校のクラスの出席人数は増えてきました。しかし、ネイトという名の若い男性は、どんなに誘っても日曜学校に来ません。ソンネンバーグ姉妹は、1匹の羊がいなくなってしまうそうだと感じました。そう感じたとき、彼女は「いなくなった一匹を見つけるまで……捜し歩[こう]」と思いました(ルカ15:4)。そこで、ソンネンバーグ姉妹はネイトのことを諦めるのではなく、ある計画を思いついたのです。

### 家庭への訪問

ある日曜日の夕方、彼女はネイトの家に行きました。すると、ネイトは家にいて、やはりその日彼女のクラスに出席しなかった別の生徒と一緒にいました。クラスにいないと寂しかったとそ

の二人に言って、彼女はその場で二人にその日のレッスンを教えました。ネイトの父親は少し前に解任されるまでビショップを務めていた人で、この教師の熱心さに心を打たれ、彼女の夫に次のような携帯メールを送りました。「ケン、わたしが感謝していると奥さんに伝えてください。家までやって来て、ネイトとマッケイに教えるなんて、<sup>みたま</sup>御霊に導かれた行いです。」

ところが、ネイトは次の日曜日にも日曜学校に来なかったのです。そこで、ソンネンバーグ姉妹は福音の話をするために、またネイトの家に行きました。それを予測していたネイトは、友達の家に行って隠れていました。ところがソンネンバーグ姉妹は、近所の家を何軒か訪ねてネイトを見つけると、そこでレッスンをしたのです。

ついにネイトは、日曜学校のクラスに戻ることにしました。

### 戻ったのはなぜか

なぜネイトは戻ったのでしょうか。





ソンネンバーグ姉妹が家でごちそうしたチョコレートケーキのおかげでしょうか。

ネイトの家(と近所の家)まで行ってネイトに会ったからでしょうか。

教会に行った方がよいと家族や友達に言われたからでしょうか。

それとも、日曜学校の教師であるソンネンバーグ姉妹から愛を感じたからでしょうか。

答えは、恐らくそのすべてです。このすべての理由とさらに多くの理由で、ネイトは友達と一緒に日曜学校に続けて出席するようになりました。

### その後

その後のことについて話しましょう。ネイトはこの日曜学校教師の熱心さに心を打たれ、後にこの教師をショッピングモールで見かけたときには、チャンスとばかりにチョコレートを買ってあげました。あれほどの愛をネイトに示してきたソンネンバーグ姉妹が、今度は愛を受ける番になったのです。

その後間もない2015年9月に、ネイトは伝道の申請書を書き、現在、ミシシッピ州ジャクソン伝道部で伝道しています。

日曜学校に出たがらなかったそのほかの友達も、伝道に出る決意を固めました。ソンネンバーグ姉妹が教師として教えた日曜学校の16歳から17歳のクラスに出席していた生徒のうち、5人の若い男性と3人の若い女性が伝道に出ました。帰還した人もいれば、現在伝道中の人もいて、これから伝道に出るような人も、ほかに数人います。





## 出席していない生徒に手を差し伸べる

『救い主の方法で教える』のレッスン1「生徒を愛する」には、「出席していない生徒に手を差し伸べる」という話し合いのテーマがあり、こう書かれています。「あまり活発でない会員に手を差し伸べるのは、ホームティーチャーや訪問教師、また神権指導者や補助組織指導者だけの義務ではありません。教師も同様に手を差し伸べて助けることができます。教えるとは、日曜日にレッスンをすることだけではありません。愛をもって仕えること、他の人々が福音の祝福を受けられるように助けることも含まれます。こうした助けはしばしば、クラスにあまり出席していない生徒がまさに必要としていることなのです。わたしたち皆が一丸となって、悩み苦しんでいる人々に手を差し伸べる必要があります。教師である皆さんは、助けを与えられる、またとない立場にいると言えるでしょう。」<sup>1</sup>

ソンネンバーグ姉妹は、クラスの生徒たちを助けられるまたとない立場に自分がいることを知っていました。毎週彼らの心に触れる機会に恵まれ、自分のクラスであろうと生徒の家であろうと、必ず彼らの心に触れようと決めていました。すべての教師が、クラスに毎週来ない生徒を訪問する立場にいるわけではありませんし、そんな訪問がいつでもできるというわけでもありません。しかし、ささやかなことであれ、託された人たちに何かをして愛を示すことは、だれにでもできます。預言者アルマの言葉を忘れてはいけません。「小さな、簡単なことによって大いなることが成し遂げられるのである。」(アルマ 37:6)

## 愛を込めて招く

同じ話し合いのテーマにある「愛を込めて招く」という項には、次のような観点が書かれています。「キリストのような心からの愛を表すことは、福音について悩み苦しんでいるクラスの生徒の心を和らげるのに大きな力を発揮します。多くの場合、そうした人たちは、自分が必要とされ愛されていることを実際に知る必要があるのです。」<sup>2</sup>

ソンネンバーグ姉妹がネイトに手を差し伸べる努力をした結果、ネイトは自分が必要とされ、愛されていることを感じるようになりました。ネイトとクラスメートは、現在、専任宣教師として、同じキリストのような愛を感じることができるようになる機会を得ています。日曜学校教師の模範を思い出し、その模範に倣うことができるとは、何という祝福でしょうか。

## いなくなった羊を見いだすまで

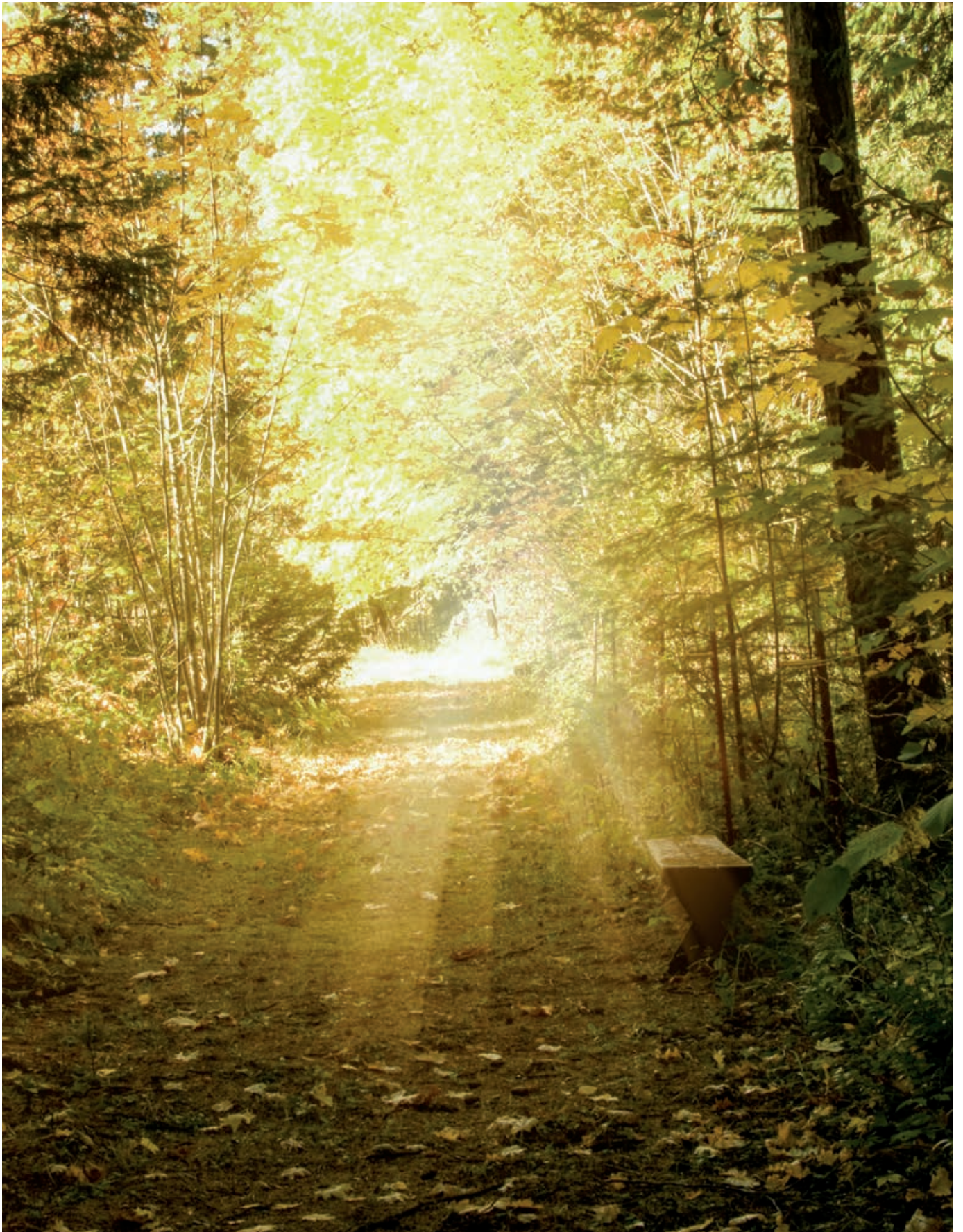
中央日曜学校会長会として、わたし

たちは、キリストのもとに来るように様々な方法でクラスの生徒を招いています。全世界の日曜学校教師に感謝しています。生徒を愛し、その愛ゆえに、主が地上における教導の業でなさったように「いなくなった一匹を見つけるまで……捜し歩〔く〕」皆さんの努力を、主が祝福してくださるよう祈ります。■

## 注

1. 『救い主の方法で教える』8, [teaching.lds.org](http://teaching.lds.org)
2. 『救い主の方法で教える』9

救い主が教えられたように教えることについてさらに学ぶには、[teaching.lds.org](http://teaching.lds.org)にある「生徒を愛する」など、『救い主の方法で教える』関連のビデオを見るとよいでしょう。







十二使徒定員会  
ジェフリー・R・  
ホルランド長老

# 幸福

## に至る福音の道

イエス・キリストは  
「道であり、真理であり、命」であります。  
イエス・キリストによる以外には  
だれも真の幸福を得ることはできません。

**預**言者ジョセフ・スミス（1805 - 1844 年）がかつて述べた次の言葉を、皆さんは何度も聞いたことがあるのではないのでしょうか。「幸福は、わたしたちが存在する目的であり、目指しているものです。幸福に至る道を進めば、わたしたちはそこに到達できます。」<sup>1</sup>

その価値ある幸福の追求について、お話ししたいと思います。ここで気をつけていただきたいのは、わたしの言う「幸福の追求」とは幸福そのものではないということです。預言者ジョセフが選んだ言葉を思い出してください。彼は、幸福に至る道がその目標を達成するために重要であることを語っています。

これは新たな追求ではありません。昔から人類が根源的に追求してきたものの一つです。西欧諸国で名を知られている最も偉大な識者の一人が、かつてこう言いました。「幸福は人生の意味および目標、人が存在する究極の目的であり、目指しているものである。」<sup>2</sup>



ヘンリー・デイビッド・ソローはこう言っています。「幸せは蝶のようだ。追いかければ追いかけるほど、逃げてゆく。しかし、あなたがほかのことに注意を向けていると、やって来て、そっとあなたの肩に止まる。」

こう述べたのはアリストテレスですが、将来を見通した彼の言葉と預言者ジョセフの言葉がいかに類似しているかに注目してください。その言い回しはほとんど同じとも言えます。アメリカ独立宣言の冒頭の段落で、トーマス・ジェファーソンは、「生命、自由、および幸福の追求」という3つの偉大な不可譲の権利を絶えず相互に関連づけることによって、(少なくともアメリカで)個人と政治の双方が追求するものを不滅のものとししました。しかし、そのすばらしいトロイカ〔訳注：もとはロシア語の「3点」の意で、これが転じて3頭立てのロシアの馬車を指す〕に留意してください。(生命や自由と同様に)権利であるのは、幸福ではなく、厳密に言えば幸福の**追求**です。

ところで、わたしたちはどのように幸福を「追求」しているのでしょうか。特に、わたしたちが若くて経験が浅く、多少緊張していて、登るのが困難な山のような人生を前にしている

ときは、どうでしょうか。そうです。わたしたちが確実に知っていることが一つあります。それは、幸福は、まっしぐらに走って行って簡単に見つけられるものではないということです。それは通常、とても見つけにくく、はかなく、きわめて捉え難いものです。幸福は、たいいていまったく予期しないとき、すなわちほかの何かを忙しく行っているときにやって来ます。皆さんがそのことをまだ学んでいなければ、やがて学ぶことでしょう。幸福は、ほとんどの場合、ほかのことに努力しているときに副産物として得られるのです。

わたしが大学時代から大好きな作家の一人、ヘンリー・デイビッド・ソローはこう言っています。「幸せは蝶のようだ。追いかければ追いかけるほど、逃げてゆく。しかし、ほかのことに注意を向けていると、やって来て、そっとあなたの肩に止まる。」<sup>3</sup>これは、偉大な福音を逆説的に表現したものの一つです。

理解しにくいように思われますが、福音には次のようにあります。「あとの者は先になるであろう。」(マタイ 19:30。教義と聖約 29:30 も参照)「自分の命を失う者は、それを見いだすであろう。」(マタイ 16:25 参照)福音はこのような逆説的表現や間接的表現に満ちています。そして、幸福の追求はその一つであると、わたしは考えています。ところで、幸福を直接に追求してそれを逃すことのないように、幸福になる可能性を最大限に高めるにはどうすればよいでしょうか。その答えを知るために、非常にすばらしい書を参照しましょう。

### 「幸福に」暮らす

モルモン書の歴史における最初の 30 年に、楽しい話はありません。リーハイとサライアの家族内の対立が深まって、家族は二分され、その一つのグループは、別のグループによる残忍な行為の犠牲になるのを恐れて荒れ野に逃げ出しました。最初のグループが安全を求め、可能なかぎり最善の生涯を送れるようにしようとして無人の地に移り住んだときに、家族の半分に当たるニーファイの民の指導者である預言者は、彼らは「幸福に暮らした」と述べています(2 ニーファイ 5:27)。

彼らが 30 年間経験してきたことと、この先の試練で彼らを待ち受けていると分かっている事柄に照らしてみれば、この言葉は多くの苦難をも含むものであると思われる。どうすればこのようなつらい経験を、多少なりとも「幸福」という言葉で表現することができるのでしょうか。しかし、彼らが幸せであったことは明らかですが、ニーファイはそうには言っていない。ニーファイが述べている言葉はこうです。彼らは「幸福に暮らした。」この言葉の中に、皆さんの今後の生涯に貴重な祝福をもたらすすばらしい鍵があるということを理解してほしいのです。

わたしが思うに、栄光の内におられる神や、天の御使<sup>みつか</sup>いたち、地上の預言者たちは、常に、毎日あらゆる方法でわたしたちを幸せにしようとするわけではなく、試しや試練が与えられるようにされます。その試しや試練は、この地上の国が与えると定められています。大管長会の第一顧問であったジェームズ・E・ファウスト管長(1920 - 2007 年)はかつてこう述べました。「幸福は包装されてわたしたちのもとに届けられ、わたしたちはただそれを開けて食べるだけというものではありません。1 日 24 時間、1 週 7 日間、ずっと幸福でいられる人はいません。」<sup>4</sup>

しかし、わたしは皆さんに断言します。神の計画の下で、わたしたちは望んでいる幸福を見いだすために多くのことを

行うことができます。わたしたちは、適切な方法で生活すればもっと蝶が肩に止まりやすくなるという確信をもって、神と歴史から告げられている幸福に至るステップを踏み、習慣を形成し、物事を行うことができます。

手短かに言えば、幸せになるための最善の方法は、幸せな人々が行っていることを行い、幸せな人々が生活している方法で生活し、幸せな人々が歩いている道を歩くことです。そうすれば、思いもよらないときに喜びを見だし、予期しない場所で平安を見だし、自分の存在が知られていると意識しないままに天使の助けを得るといった機会が、飛躍的に増します。次に挙げるのは、「幸福に」暮らすことができる 5 つの方法です。

### 福音に従って生活する

とりわけ、究極の幸福、真の平安、聖文で述べられている喜びにほんのわずかでも近いものは、何よりも、常に、イエス・キリストの福音に従った生活の中に見いだされます。ほかの多くの理念や信条の体系が試されてきました。実に、ほかの理念と体系がすべて実際に何世紀にもわたって試されてきたと言ってよいでしょう。しかし、使徒トマスが主に、今日の若人がしばしば投げかけるような質問をしたとき、すなわち「どうしてその道がわかるでしょう」、言い換えれば「どうすれば幸せになる方法がわかるでしょう」と問いかけたとき、イエスは、永遠から永遠にわたって心に残る返答をされました。「わたしは道であり、真理であり、命である。……」



わたしの名によって願うことは、なんでもかなえてあげよう。……

何事でもわたしの名によって願うならば、わたしはそれをかなえてあげよう。」(ヨハネ14:5-6, 13-14)

何という約束でしょう。わたしの道を歩み、わたしの真理に従って生活し、わたしの生活に倣って生活しなさい。わたしがあなたに示し、教えているこの方法で生活しなさい。そうすれば、幸福も含めて、あなたが求めるものは何でも与えられ、あなたが探すものを何でも見いだすでしょう。すぐに与えられる祝福もあれば、後になって与えられる祝福もあります。天に行くまで与えられない祝福があるかもしれませんが。しかし、祝福は与えられます。すべての祝福が与えられるのです。悲しみに沈んだ月曜日、涙のあふれた火曜日、疲れ切った水曜日の後に、それは何と励みになることでしょう。そして、それは永遠の真理への献身による以外のほかの方法では実現し得ない約束なのです。

使徒としての聖任を受けて間もないデビッド・O・マッケイ長老(1873-1970年)が、およそ1世紀前に語ったように、満足感や快楽やある種のスリルとは違い、真の「幸福は、永遠の命に至る細くて狭い、しっかりと踏み固められた〔福音の〕道に従ってのみ見いだされます。」<sup>5</sup>ですから、神を愛し、互いを愛し、イエス・キリストの福音に忠実であってください。

## 幸福を選ぶ

第2に、幸福の大半は皆さんの手の中にあり、様々な出来



事や環境、富、不運に左右されないということ、できるだけ早く学んでください。前世の天上の会議で戦いが行われたのは、選択の自由を勝ち得るためでもありました。わたしたちは選ぶ権利があり、自由意志があり、選択の自由があり、幸福それ自体を選ぶことはできないとしても、幸福に暮らすための選びをすることができます。アメリカ合衆国大統領エイブラハム・リンカーンは、かつて合衆国の一人の大統領が直面した中で最も困難な行政に携わり、幸せとは言えないことが多々ありましたが、「たいていの人は、自分で幸福になると決心した分だけ幸福になる」と考えていました。<sup>6</sup>

幸福は、それが手に入る前に長く頭の中に思い浮かべているものによって得られます。ジョセフ・スミスは、リバティーの監獄でひどく不幸な状況にありながらも「幸福に」過ごしており、同じようにひどい不当な行為と迫害の犠牲者となっていた獄外の人々にあてて次のように書き送りました。

「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。そうするとき、神の前においてあなたの自信は増〔す〕……であろう。

聖霊は常にあなたの伴侶となり、あなたの<sup>ほんりよ</sup>は義と真理の<sup>しやく</sup>不変の<sup>しやく</sup>徳となるであろう。」(教義と聖約121:45-46)

「絶えず徳でああなたの思いを飾るようにしなさい。」これは、現代の疫病であるポルノグラフィーを断ち切るのに良い勧告であるだけでなく、福音に添ったあらゆる種類の思い、良い思い、建設的な思い、希望に満ちた思いを抱くのにも良い勧告です。このような信仰に満ちた思いは、人生の問題に対する皆さんの見方を変え、問題の解決策を見つける方法を変えることでしょう。「主は心と進んで行かう精神とを求める」と、啓示で述べられています(教義と聖約64:34)。

わたしたちはしばしば、それはすべて心次第だと考えますが、そうではありません。幸福と平安を追求する際にも進んで行かう精神を持つことを、神は期待しておられるのです。これを念頭に置いてください。このすべてに努力を要します。それは戦いです。しかし、遂行する価値のある、幸福のための戦いです。

数年前に人気を博したある書の中で、著者はこう述べています。「幸福は個人の努力の結果として得られるものです。そのために戦い、そのために懸命に努力し、それを切に求め、そして……それを〔探し〕求めます。絶えずかわりを持って自分の祝福を得られるようにしなければなりません。そして、一度幸福な状態に到達したら、決して気を緩めることなく維持するようにならなければなりません。その幸福の中を上流に向かって泳ぎ続けるために、……そしてさらに



その状態を保つために、力強く努力しなければなりません。」<sup>7</sup>

わたしは、「絶えずかわりを持って自分の祝福を得られるように」という言葉が大好きです。受け身にならないでください。上流に向かって泳いでください。前向きに考え、語り、行動してください。それが、幸せな人々の行っていることです。それが、幸福に暮らすことの一面です。

### 優しく、楽しい人になる

もう一つ大切なことがあります。このメッセージを準備するに当たって、わたしは長い時間、書齋で過ごしながら考えました。自分の知っている幸せな人で、優しくない人や一緒にいて楽しくない人がいたでしょうか、と。どうだったと思いますか。わたしは思いつきませんでした。たった一人もです。ですから、人生の早い時期に次の偉大な真理を学んでくだ

さい。ほかの人の不幸の上に自分の幸福を築き上げることは決してできないのです。

特に若くて、心もとなく、世の中で自分の地位を確立しようとしている時期には、ほかの人を少し引きずり落とせば、ともかく自分は驚くほどに高められると思うことがあるかもしれません。それは弱い者いじめそのものです。悪意の言葉そのものです。傲慢と浅薄と排他性そのものです。こう思うかもしれません。「もし大いに否定的、あるいは悲観的、または意地悪であれば、期待が高くなりすぎることはないだろう。すべての人を欠点だらけのレベルに下げたままにしておけば、自分の欠点もそれほど目立たなくできる」と。

しかし、幸せな人は、否定的でも、悲観的でも、意地悪でもありません。したがって、それが「幸福」の一部となるような計画を立ててはなりません。わたしがこれまでの人生経験から学んだことがあるとすれば、優しく、快活

わたしがこれまでの人生経験から学んだことがあるとすれば、優しく、快活さ、信仰を基とした楽天主義が幸せな人々の特質であるということです。



勤勉であり、そして働いてください。  
ほかの人々のために働き、  
奉仕してください。  
それが、真の幸福を得るための  
まさに大いなる鍵の一つなのです。

さ、信仰を基とした楽天主義が幸せな人々の特質であるということです。マザー・テレサの言葉にこうあります。「あなたのもとを訪れる人を、より善い人、またより幸せな人にして帰らせてください。身をもって神の優しさを示す人になってください。あなたの顔に優しさを、あなたの目に優しさを、あなたの笑顔に優しさを、あなたの温かい歓迎に優しさを。」<sup>8</sup>

幸福に至る道の第一歩は、悪感情、論争、怒りを生活の中に持ち込まないことです。覚えておいてください。怒ることが大好きなのは、わたしたち全員の敵対者であるルシフェル、すなわちサタンです。彼は「争いの父であり」……互いに怒って争うように人々の心をおり立て[ます]。(3 ニーフай 11:29)

七十人のリン・G・ロビンズ長老は、数年前の総大会でこの節を引用した後で次のように述べています。「この『おり立てる』という方法は、災いをもたらすレシピのようなものです。まず、中火でいらだちを温めて辛辣な言

葉に加えて混ぜ、煮立たせます。そのまま、どろどろになるまでよく混ぜて冷やします。不快な感じのまま数日間ほうっておきます。冷たくしてからどうぞ。お代わりも十分できます。」<sup>9</sup> お代わりが十分にあることは事実です。

怒りはそれに触れるほとんどすべてのものを、損ない、破壊します。ある人が語ったように、心に怒りを抱くことは、毒を飲むことやほかの人が死ぬのを待つことに似ています。それは強烈な酸であって、本来の対象物を溶かす前にその容器を損ないます。怒りやそれに類似した悪習——暴力、激情、恨み、憎悪——の中に、福音に従った生活や幸福の追求にかかわりのあるものは何一つありません。怒りは「幸福に」暮らす生活の中にはあり得ないと、わたしは考えています。少なくとも、そのような生活の中で怒りが助長されること、受け入れられること、怒りに身を任せることはあり得ません。

## 取り組む

わたしたちが考慮すべきことはほかにも数多くありますが、最後に一つ、次のことを提案します。ニーファイは、苦勞の30年間を過ごした後に新たな地で幸福を見いだそうと努め、こう述べています。「わたしニーファイは、民を勤勉に働かせ、また手を使って働くようにさせた。」(2ニーファイ5:17)一方、彼らが前に住んでいた地に残った人々は、「悪意と狡猾さに満ちた怠惰な民」になりました(2ニーファイ5:24)。

学校や伝道地、職場、あるいは結婚生活で幸せになりたいければ、それに取り組んでください。働くことを学んでください。熱心に奉仕してください。怠惰にならず、また人を傷つけないようにしてください。キリストのような特質は、適切なことを、適切な時に、適切な方法で行う誠実さであると簡潔に定義づけることができるでしょう。怠惰にならないでください。無駄な時間を過ごさないでください。「研究によって、また信仰によって学問を求め[てください]。』(教義と聖約88:118)勤勉であり、そして働いてください。ほかの人々のために働き、奉仕してください。それが、真の幸福を得るためのまさに大いなる鍵の一つなのです。

さて最後に、アルマがコリアントンに述べた率直な勧告を引用したいと思います。父親が娘や息子に与えたいと思うあらゆる励ましの言葉とともに、アルマは、復活によって忠実な者は「無窮の幸福」な状態によみがえって「神の王国を受け継ぐ」と述べています(アルマ41:4)。さらにこう付け加えました。わたしたちは「幸福を望んだことによって幸福に……よみがえる」と(アルマ41:5)。しかし、アルマは厳しく次のようにも警告しています。「[悔い改めをしないで]罪から幸福へ回復されると思っはならない。見よ、あなたに言うておが、悪事は決して幸福を生じたことがない。」(アルマ41:10、強調付加)

罪は「幸福に暮らす」逆の結果をもたらす行為です。実際、そう信じていない人々は、「この世で神なしに生きている人々であり、神の性質に反して行動して[おり、]したがって彼らは、幸福の本質に反する状態にある」と、アルマは述べています(アルマ41:11)。

## 背罪を拒む

真の幸福の本質である神の性質と一致した生活を送るために、背罪を拒むようにしてください。「幸福に至る道を進む」ようお勧めするとともに、そのように努力している皆さんを称賛します。ほかの道で幸福を見つけることはできません。

わたしは証します。天におられる永遠の御父なる神は、

わたし以上の愛をもって、常に皆さんを励まし、皆さんの努力を称賛しておられます。わたしは証します。神は皆さんが幸せであり、真の喜びを得てほしいと思っておられます。わたしは御父の独り子の贖罪<sup>しよくざい</sup>について証します。御父の独り子は、正しい道を備えてくださり、また必要であれば、新たな出発、第二の機会を与えてくださり、必要に応じてわたしたちの気質を変えてくださいます。

イエス・キリストは「道であり、真理であり、命で[あられる]」こと、そしてイエス・キリストによる以外にはだれも真の幸福を得られないということを、皆さんが知ることができるよう、わたしは祈っています。いつか、やがて、そのうちに、皆さんがイエス・キリストの福音に従って生活するときに、心にあらゆる正しい望みを与えられ、それらの祝福にあずかる生き方ができるよう、わたしは祈っています。■

2014年9月23日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校のデイポーショナルで行われた説教“Living after the Manner of Happiness.”(「幸福に暮らす」)から。英語の全文は、[web.byui.edu/devotionalsandspeeches](http://web.byui.edu/devotionalsandspeeches)からご覧いただけます。

## 注

1. ジョセフ・スミス、*History of the Church*, 第5巻, 134
2. アリストテレス、*The Nicomachean Ethics*, H・ラッカム訳(1982年), 31
3. ヘンリー・デイビッド・ソロー、*Thoreau on Nature: Sage Words on Finding Harmony with the Natural World*(2015年), 72。この引用文は、ナサニエル・ホーソーンや無名作者による言葉であるとも言われている。
4. ジェームズ・E・ファウスト「幸福の探求」『リアホナ』2000年10月号, 4
5. デビッド・O・マッケイ、Conference Report, 1919年10月, 180、強調付加
6. この引用文はエイブラハム・リンカーンの言葉であると、フランク・クレイン博士は1914年1月1日付の *Syracuse Herald* で述べている(quoteinvestigator.com/category/frank-crane)
7. エリザベス・ギルバート、*Eat, Pray, Love: One Woman's Search for Everything Across Italy, India and Indonesia*(2006年), 260
8. マザー・テレサ。スーザン・コンロイ、*Mother Teresa's Lessons of Love and Secrets of Sanctity*(2003年), 64
9. リン・G・ロビンズ「選択の自由と怒り」『聖徒の道』1998年7月号, 86





もっと上手にできる —

# 人々を群れに 歓迎する

新会員や教会に戻ろうとしている会員がなじめるよう助ける4つの方法を紹介します。

編集者注 — 新会員や教会に戻ろうとしている会員がイエス・キリストをどれほど強く信じていても、教会になじめなければ忠実さを保つことは容易ではありません。この記事では、すでに群れの中にいる会員が、人々を迎え入れるためにできることについて検討します。12月号では、自分がよそ者だと感じている人が居場所を見つけるためにできることについて見ていきます。

ベッツィー・バンデンバーグ

メリッサ（すべての人名は変えられています）は、アメリカ中西部でバプテスマを受けて1か月たかないうちに、聖餐会せいさんの開会の祈りをささげました。人前で祈ることに不安を抱いていましたが、「天のお父様に話しかける能力には自信があった」と振り返ります。「特に教会の求道者であったときを含め、それまで何年も祈っていましたが、聖霊の助けを感じていたからです。」

ですから、ワードのある会員から電子メールを受け取って





驚きました。祈りが間違っていた理由が「事細かに」書いてあったのです。恥ずかしい気持ちと疑いがメリッサに激しく押し寄せてきました。すると、自分を教えてくれた帰還宣教師に電話をした方がよいと感じました。「彼は、その会員がそんなふう<sup>に</sup>にわたしを批判するのは見間違いだと即座に断言してくれました。また、わたしが思っていたとおり、ビショップリックがだれかを介してそのような感想を伝えることも決してないと言いました。」

安心したメリッサはワードに活発に集い続け、召しを受け、引き続き信仰を培いました。しかし、気持ちをくじくようなメールを受け取ったために生じた心の痛みから立ち直り、失った自信を回復するには数か月かかりました。

残念ながら、メリッサのような話は珍しいことではありません。多くの新会員や、教会に戻ろうとしている会員が、なじめないと感じるきっかけになる試練に直面します。それは重大な試練ですが、多くの場合、回避できるものです。強い証<sup>あかし</sup>を持っている人でさえ、のけ者にされていると感じると忠実さを保つのに苦労します。最近公開された『多様性における一致』(Unity in Diversity) というビデオシリーズの中で、教会の指導者たちはこの問題を探り上げ、会員たちが人と交わる際に、もっと配慮し、招き入れ、愛を示すよう勧めています。

次の物語は、わたしたちが会員としてこれらの原則を実践して、主の教会に心から受け入れてもらいたいと強く望む



人々に真の友情の手を差し伸べる方法を示しています。

### 信仰の友となる

「だれかが教会に一歩足を踏み入れたら、その人はすぐに、受け入れられ、愛され、高められていると感じるべきです。そして……前進し、より善い人になるよう鼓舞されたと感じるべきです。なぜなら、主の愛を感じ、信仰における友人がいることを実感するからです。」

——中央若い女性会長会第一顧問、キャロル・F・マッコンキー姉妹

メリッサは、特に自分のワードで、助言や助けを必要としているときに頼れる友人を必要としていました。夫と娘はまだ教会に加わっていませんでした。

「教会に来て家族で集っている人たちを見ると、孤独が身に染みましました」とメリッサは言います。だれもが親切でしたが、会員の幸せそうな姿さえも、「わたしにはあんなモルモンの輝きを身にまとうことは絶対できないわ。問題を抱えているのはわたしだけだもの」と思うきっかけとなったのです。

メリッサには、教えてくれた帰還宣教師に加え、教会を紹介してくれたオンラインでつながっている友人シンディーがいました。「メリッサが地元で困っているのをただ黙って見ているのはつらかったです」とシンディーは説明します。「そこで、個人的にフェイスブックのグループを作りました。そのグループを通して、愛が深く、とてもしっかりした様々な会員たちが、わたし一人ではとてもできない方法で彼女を助けて、友人になってくれました。」

このグループのおかげでメリッサはワードに居場所を見つけるまでの間、歓迎されていると感じるだけでなく、生活様式や文化に関する心配事についての質問に答えてもらうことができました。「わたしは小さいころからタンクトップとショートパンツを着て育ちました」とメリッサは言います。オンラインの友人が、地元の店で探すとよい洋服の写真を送ってくれて助かったと話します。メリッサはそれをきっかけにワードの姉妹にお勧めの映画について尋ねました。自分が持っていたものの



一部に違和感を覚えたためです。

メリッサは、友人になるうえで大切な側面は、助言を求めることだったと指摘します。頼んでいないのに助言を受けると、歓迎されているというよりは、心に立ち入られた、あるいはプライバシーの侵害だと感じ、心の準備ができていない人を傷つけることがあります。

やがて、メリッサは扶助協会で教える召しを受けました。召しをきっかけに、ワードの人々と交わる機会が生まれました。メリッサは、様々なことについて姉妹たちに話しました。新会員として順応するうえでの苦勞についてだけでなく、自閉症の子供への対応や健康問題について、さらには「犬が死にそうなの」といったことまで話したのです。クラスや個人的な会話の中で、ほかの姉妹たちに話を聞いてもらい、彼女たちが抱えている困難について話してもらおうという経験をする中で、とても癒いやされました。このような結びつきにより、メリッサはとうとう教会の中に真の友人ができたと感じるようになりました。

### すべての人を招き入れる

「救い主は『わたしがあなたがたを愛したように互たがいに愛し合いなさい』と弟子たちに命じられました。(ヨハネ 13:34, 強調付加)で

すからわたしたちは、主がどのようにわたしたちを愛してくださったかに目を向けます。……主を模範とするならば、わたしたちはすべての人に手を差し伸べて招き入れるべきです。」

——十二使徒定員会、ダリン・H・オークス長老

カナダの求道者ロバートは、末日聖徒の様々な集会和活動に参加してきました。これまでいろいろな宗教を研究してきましたが、引き続きこの教会について学んでいるのは、この教会の教義とモルモン書から靈感を得てきたからです。さらに学ぶために出席しているインスティテュートの社交的な環境が、「爽やかなほど健全かつ友好的で、とてもいい雰囲気」だと言います。「モルモンは世界一親切な人たちです。」

自称内弁慶のロバートは、人と交わりたいと思うものの、「どうやって輪に入ればよいか分からずに部屋の隅にじっとしがちです。ずっと前から末日聖徒である人たちの中には、ほかに友人を必要としているようには見えない人もいます。」しかし、この孤独感を和らげることはそれほど難しくありません。ある活動で、「夕食後にある人がやって来て、この後、映画に行こうと言ってくれたのです。そうでなければわたしは帰っていたと思います。とても楽しい時間を過ごしました。だれかが自分にいてほしいと思ってくれていることを知る必要があったのです。」

### 新しく教会に来た会員や求道者と上手に交わるための提案

- 少し努力して、温かくあいさつする、交わる、ほかの会員に紹介する。
- 自宅または活動に招き、日曜日だけでなく週日にも彼らが仲良くできる友人を見つけられるようにする。
- 彼らが理解してもらえたと感じられるよう、耳を傾け、質問する。
- 困難を克服したときの経験を話して、だれもが困難を経験していることを知ってもらう。
- 助言を求めてくるのを待つ。助言する際には、命令口調になったり、威圧的になったりしないようにする。
- 宗務上の指導は神権指導者や扶助協会指導者にしてもらう。会員は良い友人になることにもっと心を砕くべきである。
- 彼らの進歩を、自分やほかの人の進歩と比べない。
- 文化的な傾向ではなく、教会の基本的な教義を教える。
- 新会員や求道者、あまり活発に教会に来ていない会員にオンラインで手を差し伸べる機会を求めめることもできますが、直接育む友情はさらに意義深いものとなるでしょう。

メリッサと同様ロバートは、教義については説明するけれど、その実践の仕方についてはあまり細かく口を出しすぎない末日聖徒の友人が助けになると言います。注意するよりも話を聞いてくれる友人は、「隣を歩いてくれる人」のようだと言います。「もっと早く歩くようにと背中を押してつまずかせたりはしません。」

ロバートは喫煙をやめるのに苦労しました。彼の感じる居心地の悪さは、教会を知ったばかりの人が教会員との相違点を深く自覚していることを示しています。「わたしがたばこ臭いことについてだれも触れませんでした」とロバートは言います。「でも、洗い立ての洋服がなければ、インスティテュートや教会には行かず、家にいるようにしています。」

教会を知ったばかりの人々を安心させ、迎え入れるときに、帰属意識を高めることができます。十二使徒定員会のD・トッド・クリストファーソン長老はこのように述べています。「傷つきやすい人がやって来て、『ここにいたい』と言ったのに、冷たくあしらわれたり関心を示してもらえなかったりしたとしたら、胸が張り裂けそうです。とても悲しいことです。……改善の余地があります。」(“Is There a Place for Me?” [ビデオ], lds.org/media-library)

## 自分から行動を起こす

「自分から行動を起こそうとする人は、だれかに祝福をもたらします。……隅に独りで座っている人はいませんか。ほかの人に心を聞くことができれば、自分がそこにいていいのだと分かります。」

——中央扶助協会会長、ジーン・B・ビンガム姉妹

エルサはオランダで教会に加わってから、愛に満ちた天の御父との真の結びつきを経験しました。しかし、ヤングシングルアダルトである彼女は、家族や友人が自分の新しい宗教的な信条や慣習を不快に思うときに感じる寂しさにも対処しなければなりません。「会員がしてくれたことで最も良かったのは、教会外で積極的に仲良くしてくれたことです。エンダウメントをすでに受けているにもかかわらず、バプテスマをするために神殿に一緒に行ってくれた人もいます。力をもらって終わりまで堪え忍ぶためには、日曜日以外にも会員と交わる必要があります。」

エルサは、新会員としての最大の課題は、「すべてを一度に理解するよう期待されること」だと言います。「略語や行

事、召しがたくさんあって、圧倒されそうでした。なかなか覚えられないと思われているのではないかと心配になることが時折ありました。」さらに、多くの人と同じように、彼女は人と話すことに不安を抱き、「礼拝堂の後ろに座って人とほとんど交わらない方が居心地よく感じます。」大勢の人に圧倒され、積極的に参加していないことを人がどう思っているか考えてしまいます。「レッスンに参加したくないとか、人前で賛美歌を歌ったり祈ったりしたくないというわけではありません」と説明します。「ただ、よく知らない人たちの前で実際に泣き出してしまうのが怖いのです。」

マッコンキー姉妹はこう言います。「靈感を受けて高められるために毎週日曜日に教会に来るものの、裁かれた、愛されなかったと感じながら教会を去る人がいることを知っています。必要とされていない、教会に居場所はないと感じるのです。これを変えなくてはなりません。」

エルサは、人を裁かない会員が最も助けになると言います。「わたしの心の葛藤<sup>かつとう</sup>に耳を傾け、わたしの心に土足で踏み込んで来たりはしません。会員であるとはどういうことかをわたしが自分で分かるまでの間、誠実に、忍耐強く行動してくれます。」不安を抱えているにもかかわらず、エルサは宣教師に同行して新会員と求道者を探しています。「新会員の気持ちが分かります」とエルサは説明します。「わたしを絶望<sup>ふち</sup>の淵から救ってくれた福音という賜物<sup>たまもの</sup>をだれにも拒んでほしくないのです。」

## 福音に従って生活し、弟子となる

「人々は異なった賜物と視点を持ち寄ります。様々な経験と背景や直面する困難は、キリストの福音の本質を示してくれます。それ以外のほとんどのもの、つまり、恐らくは時間をかけて得たものや、教義的というよりは文化的なものは消えていき、弟子となるとはどのようなことがほんとうの意味で分かるようになります。」

——十二使徒定員会、D・トッド・クリストファーソン長老

教会に対して批判的だったジムが教会に加わったのは、「福音とその教義が真実だと証する聖霊の、疑うことのできない霊的な証」を得たからです。しかし最大の課題は、末日聖徒の文化に順応することでした。

バプテスマ後、会員に一般的に受け入れられている行動の多くは、教義的なものではなく文化的なものであることに



気づきました。「どの組織立った宗教でも起こることですが、ある様式に従わないと、福音を完全に受け入れていないと非難されるような気がしていました。福音や教義のことで困るのではなく、もっぱら文化的だと感じる事柄に対する一致の度合いで苦勞していました。

クリストファーソン長老は、新会員や求道者をはじめとする人たちの手を借りて、時の経過とともに蓄積された、教義とは関係のない慣習を絶って真の弟子となる必要があると説明しています。

オークス長老は、異なる背景を持つ人々と交わることの利点について触れ、相違点に焦点を当てることを避け、まず「どちらからいらっしゃいましたか。あなたの基本的な価値観は何ですか。目標としていることは何ですか」と尋ねるよう末日聖徒に勧めています。このような率直さと受け入れる姿勢と引き換えに、新たに輪に加わった人たちは、受け入れられた、高められた、愛されていると感じ、キリストの教会で救いを受け入れる備えができます。

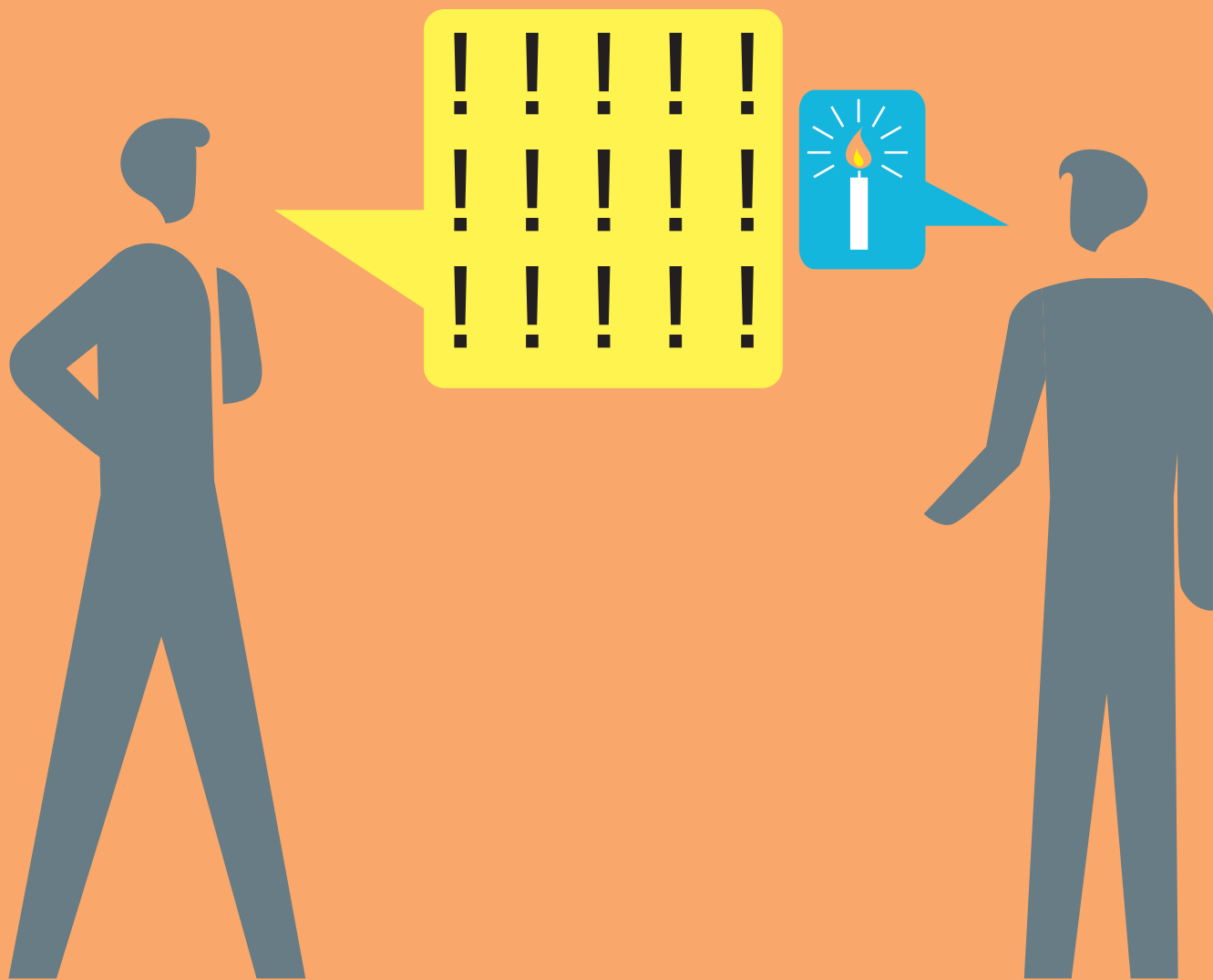
今日の教会の指導者と同様に、使徒パウロは古代のキリスト教会の分裂を心配しました。パウロは主張の強い会員に、結局のところそれほど重要でない慣行のことで聖徒を傷つけないよう強く主張しました。「知識は人を誇らせ、愛

は人の徳を高める」と説明したのです(1コリント8:1)。パウロは「お互いの中に争がないように」求め、会員同士の相違点ではなく「イエス・キリスト、しかも十字架につけられたキリスト」に焦点を当てるよう勧めました(1コリント1:10;2:2)。

今日、現代の使徒と預言者は多様性の中で一致を見いだすよう促しています。「神の子を信じる信仰の一致と彼を知る知識の一致とに到達し、……ついに、キリストの満ちみちた徳の高さにまで至る」という目標の重要な一部として(エペソ4:13)、キリストの教会の会員一人一人に居場所を作るよう勧めているのです。■

### 『多様性における一致』(Unity in Diversity) (英語) を視聴する

教会に居場所があるとはどういったことかについて、教会指導者の短い話が収められているビデオシリーズを視聴してください([lds.org/go/unity917](https://www.lds.org/go/unity917))。





七十人  
ヨーク・  
クレビンガット  
長老

# 信仰を 擁護する

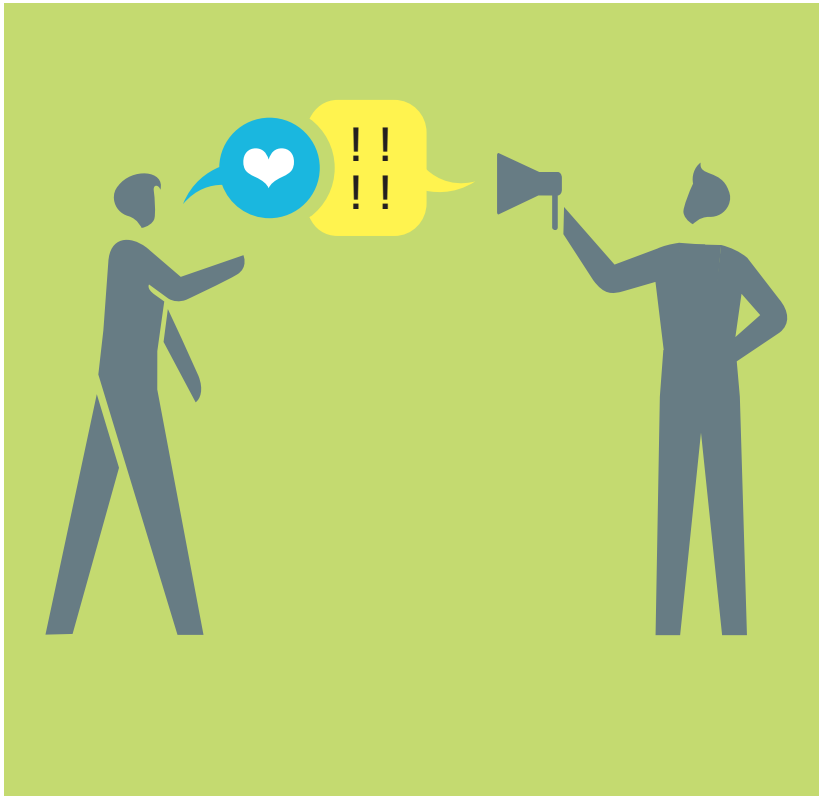
主は、謙遜<sup>けんそん</sup>でありながらも確固としてキリストと神の王国を  
進んで擁護することのできる民を必要としておられます。

**前**世で、わたしたちには選択の自由、論理的思考力、そして英知がありました。そこでわたしたちは「神の先見の明によって……召され、備えられ」、初めは兄弟、姉妹たちと「同じ立場にいた」のです（アルマ13：3、5）。成長し、学ぶ機会がだれにでもありました。

しかし、天の御父の霊の子供たちが、愛にあふれる天の家の教えに、皆同じようにあずかることができるとは言っても、だれもが同じように耳を傾け、学び、従う望みを持っているわけではありませんでした。今日と同様、わたしたちは選択の自由を行使して耳を傾けましたが、興味の度合いと目的は様々でした。熱心に学び、従おうと努力する者もいました。天での戦いが今まさに始まろうとしていたとき、わたしたちは前世の家に別れを告げる覚悟を固めていました。真理を教える者と否定する者、証<sup>あかし</sup>を述べる者とあざける者がいて、前世の霊はそれぞれ、御父の計画を擁護するか、退けるかのいずれかを選ばなければなりませんでした。

## 中立はない

結局のところ、この争いでは、どちらにもつかずに引き下がり、中立な立場でいるという選択肢はありませんでした。今日もそれは同じです。イエス・キリストの来るべき贖罪<sup>しよくざい</sup>を信じる信仰で武装し、イエス・キリストの神聖な役割についての証に励まされ、霊的な知識とその知識を使ってイエス・キリストの聖なる名前を擁護する勇気を持つわ



回復された福音が  
どの方向から  
攻撃を受けても、  
柔和と愛の精神で  
真理について  
証することのできる、  
数多くの  
真の末日聖徒を  
必要として  
おられるのです。

たしたちは、この言葉の戦いの前線で戦ったのです。それらの勇敢な霊たちとその他の者たちは「羊の血と彼らのあかしの言葉とによって」ルシフェルを打ち負かしたとヨハネは教えています（黙示 12：11，強調付加）。

そうです、救い主が生まれ、ゲツセマネとカルバリで血を流されるという約束が前世の戦いで勝利を得たのです。さらに、前世におけるわたしたちの勇氣と証、喜んでほかの霊たちに説明し、道理を説き、説得しようとする姿勢も、偽りの潮流が何の抵抗もなく広がるのを食い止めるのに役立ったのです。

主を擁護する務めという前世の旅を無事終えたわたしたちは、主の聖なる御名の証人となりました。戦いの中でわたしたちを試し、わたしたちの誠実さと勇氣を確信した主は後にわたしたちのことをイスラエルの家の者と呼び、こう言われました。「あなたがたはわが証人……である。」（イザヤ 43：10）こう自問してみましょう——この宣言は今日のわたしたちにも当てはまるだろうか。

### 現在の戦い

今日も、イエス・キリストの再臨を前にして、

御父の子供たちの思い、心、精神に説きつけようとする戦いの激しさに変わりはありません。心から教会の教えに興味を抱く人は世の中にたくさんいるものの、邪悪な人々と義にかなった人々との差は広がり、道徳が急降下している世の中と回復された福音の真理との間の溝は開く一方です。不完全でありながらも光を求めて努力する聖徒たちを闇に従っていると非難し、彼らの思いと働きのすばらしさを見苦しいと言う時代に（イザヤ 5：20 参照）、回復された主の教会と主の忠実な僕にあざけりの指が向けられても、驚く必要はありません（1 ニーファイ 8：27 参照）。

トーマス・S・モンソン大管長は次のように教えています。「わたしたちは、滅びに至るような道に誘い込もうとする誘惑に囲まれた時代に生きています。このような道に入り込まないためには、決意と勇氣が必要です。」

受け身で気楽な会員でいるだけでは、この末日の戦いを切り抜けることはできません。モンソン大管長は続けてこう語っています。「日々の生活で信仰の試しを逃れることはまずできません。……たとえ孤立することになったとしても、信仰を曲げずに道徳的な価値観を貫く勇氣があるでしょうか。」<sup>1</sup>

大きく広々とした建物から雑音がひっきりなしに聞こえてきても（1 ニーファイ 8：26 – 27 参照）、通る人がほとんどいないような道を確認として歩む覚悟はできているでしょうか。<sup>2</sup> だれかが率直に質問してきたとき、その人と進んで礼儀正しく語り合うことができるでしょうか。論争して言い負かすのではなく、イエス・キリストの回復された教会の教えを進んで分かりやすく論じ、擁護することができるでしょうか。

十二使徒定員会のダリン・H・オックス長老は、無愛想になることなく、丁寧に反論するようにと助言を与え、次のように教えています。「柔和にな……るよう努めるときでも、自分たちの理解する真理に向ける献身の度合いを妥



協したり、弱めたりするようなことがあってはなりません。」<sup>3</sup>

## 勇敢になる

モンソン大管長の招きについてよく考えてみましょう。「一度証を得たら、その証を人に分かち合うのはわたしたちの務めとなります。……わたしたちが勇敢であり、信じることを擁護する備えができますように。独りで立たなければならぬときは、天の御父とともに立つならば決して独りではないという真実に励まされ、勇気をもってそうすることができますように。」<sup>4</sup>

教会員であるというだけで、自動的にキリストとキリストの回復された教会の雄々しい証人になるわけではありません。主は福音に従った生活を通して光を輝かすようわたしたちに教えておられますが、自分が教会員であることを隠し、自分の光を升の下に置く会員もいます。尋ねられる福音に関する質問には答えるものの、証し、招くことにためらいを覚える人も時々います。しかし、実際に、福音を分かち合う機会を探し求め、しかも喜んでそうしている人もいます。わたしたちの中に、積極的で勇敢な真理の擁護者はどれくらいいるでしょうか。

今日、言葉による戦いの中で立場を守り、取り戻すために、喜んで、謙遜でありながらも確固としてキリスト、生ける神の預言者、預言者ジョセフ・スミス、モルモン書、そして教会の標準を擁護できる民を、主は必要としておられます。主は、「[自分たち]のうちにある望みについて説明を求める人には、いつでも弁明のできる用意をして[いる]」民を必要としておられます(1ペテロ3:15)。回復された福音がどの方向から攻撃を受けても、柔和と愛の精神で真理について証することのできる、数多くの真の末日聖徒を必要としておられるのです。

## 司令官モロナイの模範

真理の勇敢な擁護者として自分はふさわしくないと感じているとしても、それはあなただけではありません。ほとんどの人がある程度そのように感じています。しかし、能力と自信の両方を得るためにできる簡単なことがあります。

モルモン書を読むと、司令官モロナイが「主なる神に忠実であるように民の心を備えさせていた」ことがわかります(アルマ48:7)。モロナイは、防御の第一線は、個人的な従順という土台の上に築かれた生活であることに気づいて

いたのです。さらに、モロナイは「小さいとりで……を幾つも築き、軍隊を囲む土手を造り、また軍隊を囲む石垣も築[きました]。」(8節) 幾つかの予防措置を講じただけでなく、戦略的に、「防御の最も弱いとりで」(9節)を強化しました。モロナイの防御策は大きな成功を収め、敵は「非常に驚[き]」(アルマ49:5)、自分たちが立てた邪悪な計画を実行できませんでした。

「自分のように弱い者でも勇敢な擁護者になることができるのだろうか」と疑問に思う人がいるかもしれません。主がまず求めておられるのは「[その人の]心と進んで行う精神」だけであることを受け入れるときに、自分の感じる弱さは強さに変えることができます(教義と聖約64:34)。勇敢な精神を授かった世の「小さな、簡単な」者は主の好まれる人材です。「ごく小さな手段」によって「知者を辱め[る]」のが主の方法であることを思い出してください(アルマ37:6,7)。回復された福音とその指導者と教義を進んで分かち合い、擁護するのであれば、以下の提案を検討するとよいでしょう。

1. **だれを、また何を擁護するのか知る。** 確かな防御策は、確かな攻撃の礎となります。自分がまったく知らないことやほとんど知らないことはうまく擁護できませんし、自分が深く思いを寄せていないことは擁護しません。給与をもらって羊の世話をする雇われ人は、面倒なことが起こりそうになると、後ずさりするかそそくさと逃げ出します。同様に、自分の掲げる大義が正しく、真実だという霊的確信がない限り、人は防御線をあまり高く維持しません。キリストとそ



の教会を証し、擁護するには、主が生きておられることと、この教会が主の回復された教会であることを知っていなければならないのです。

福音を知り、しかも福音に従って生活する人は、ふさわしさと個人的な経験から生まれる理解と燃えるような確信に満ちています。そのような人は、答え方を学ぶことばかり気にしている人よりも、真理について証するための備えができています。

**2. 自分とだけでを評価する。**司令官モロナイの模範に従いましょう。福音の理解に関する自分の長所と短所を正直に評価しましょう。あなたはキリストのような生活を送ることで良い模範を示しているでしょうか。聖文を調べて疑問の答えを見つけることができるでしょうか。自信をもって証を述べているでしょうか。たとえ説明しづらいものであっても、教会の教義や教えに関する質問に聖文を使って答えることができるでしょうか。「分かりませんが、見つけます」と答えたり、答えが見つかる場所を教える備えができていますでしょうか。熱心な学習が、自分の求めている確信や勇気を得るのに役立っているでしょうか。<sup>5</sup>

**3. 自分とだけでを強化する。**自分の前にある教義上の「とりで」を評価し、弱さを強さに変えるために、焦点を絞った長期的な学習を始めましょう(エテル12:27参照)。モーセの叫びにこたえてください。「主の民がみな預言者となり、主がその霊を彼らに与えられることは、願わしいことだ。」(民数11:29) スプーン1杯の土を日々積み上げる度に主に願い求めるならば、主はあなたの防御壁に何キロも

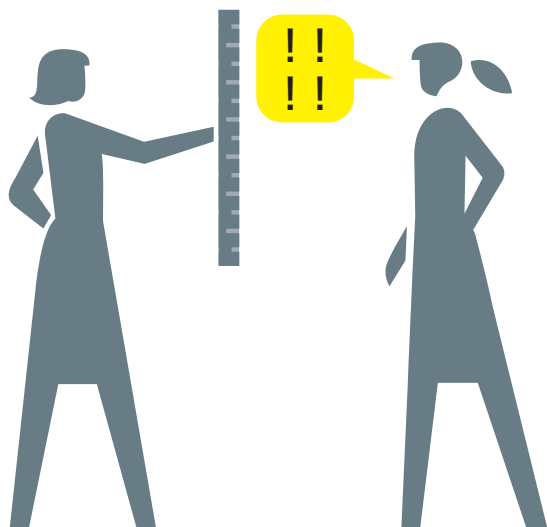
の土を盛ってくださいます。

よく祈り、何度も繰り返し聖文を読みましょう。よく知っている物語をストーリーですするだけでなく、よく味わってください。教義に関する学習帳をつけ、継続的に付け足していてもよいでしょう。それぞれのテーマについて、自身の考えと教えの根拠とするために、幾つかの聖文を論理的な順序で選び、暗記してもよいでしょう。十二使徒定員会のリチャード・G・スコット長老(1928-2015年)は次のように教えています。「主が記録するよう命じられた聖句をそのまま引用すると、ほかの言葉では伝わらない本質的な力を発揮します。」<sup>6</sup>

預言者や使徒の言葉を幾つか暗記してもよいでしょう。聖霊は、通常、覚えたことだけを「……思い<sup>おこ</sup>起させる」ことがおできになります(ヨハネ14:26参照)。「[主の]御<sup>みたま</sup>霊の剣」と結び合わされたキリストを中心とする教義上の知識は(教義と聖約27:18)、あなたが所有する最大のとりでとなり、攻撃にあっては最強の武器となります。

**4. 練習!** 教会の専任宣教師は、自分が置かれる可能性のある状況に備えるために、ロールプレーで練習をするよう奨励されています。まったく予期し得ない時や場所で教会を擁護したり、教会の教義を説明したりするよう求められるかもしれないのですから、宣教師の模範に従うことを考えてはいかがでしょうか。自然に会話ができるよう、自らを霊的に備えるのです(モーセ3:5,7参照)。自分が教えたり、福音の標準を擁護したりする立場に立つことになる前に、練習をするのです。一人でも、家族や友人と一緒にでもいいのですが、予想される質問を投げかけて、それに答えてください。備えができればできるほど、キリストの証人としての自信を「ますます確固としたものに[する]」ことができます(ヒラマン3:35参照)。簡潔で単純な質問から始めましょう。ほとんどの状況に当てはまる質問です。さらに、防御をさらに固めるために、関連聖句を研究し、様々な教義を結びつけることもできます。

**5. 機会を求める** このようにして備えができたなら、謙遜でありながらも確信をもって福音を分かち合い、必要な場合には、福音を擁護する機会を求めて祈ってください。忘れないでください。「失意というものは、ふさわしさに欠けるために生じるものではなく、勇気に欠けるために生じるものなのです。」<sup>7</sup> 教会内であろうと外部であろうと、皆さんが天の御父の子供たちを心から愛し、福音の標準を分かち合い、擁護することができるように祈ります。自分にとって教義の



盲点となっているものを無視したり、諦めたりすることなく、キリストを信じる信仰をもって努力し、それらの盲点を克服できるように祈ります。

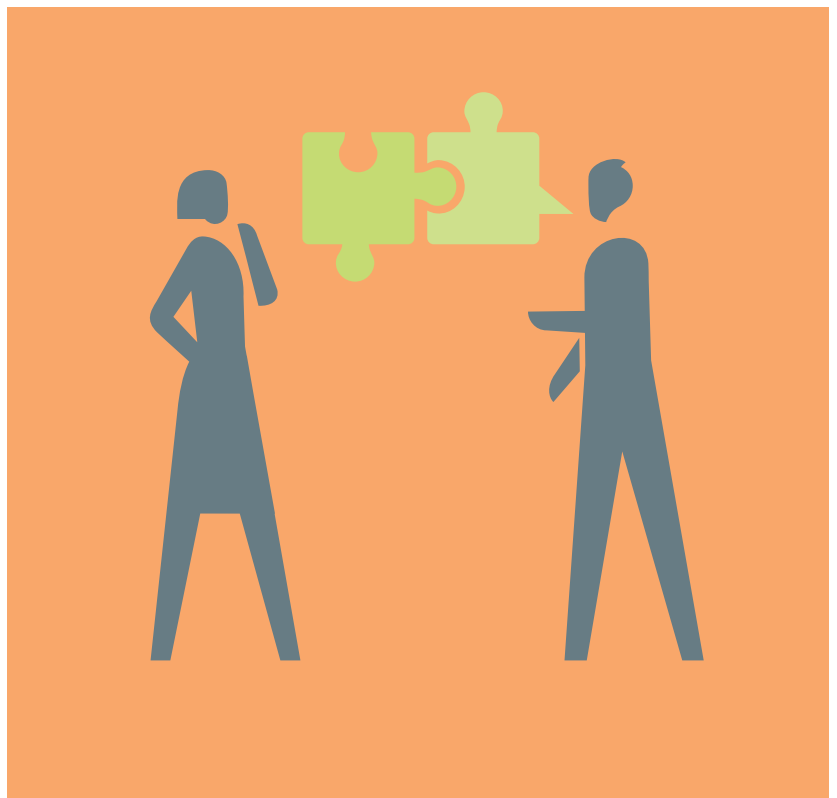
公園で遊ぶ子供ですらキリストの擁護者となることができることを忘れないでください。聖書学者でなくても真理の証人となることはできますし、すべての答えを知っている必要はないのです。時には、「分かりません」、あるいは「〔その〕奥義は、まだ全部はわたしに知らされていないので、わたしはそれを語ることを控えなければな〔りません〕」と言ってもかまわないのです。(アルマ 37:11)。「福音を恥とし」ないと(ローマ 1:16)、部分的な真理やまったくのうそを無視したり、がまんしたりすることではなく、教義を理解し、擁護することです。ですから、沈黙を守るとしても、恐れからではなく、聖霊の導きに従って沈黙を守るようになってください(例えば、アルマ 30:29 参照)。

### 備えのできた証人として立つ

あなたがイエス・キリストの福音を擁護し続け、「神の栄光にひたすら目を向けて、信仰、希望、慈愛、愛を持つ」のであれば、その業に携わる資格があるのです(教義と聖約 4:5)。キリストは柔和でありながらも決して弱くなかったこと、行動を促したけれども非難もされたこと、また次のようにも言われたことを、ここで思い出しましょう。「争いの心を持つ者はわたしにつく者ではな〔い〕。」(3 ニーファイ 11:29)

邪悪な世の人々が神の道徳の標準や教義の標準を破っている中で、少なくとも聖徒たちが主の御名の証人となるようキリストは望んでおられます。

ゴードン・B・ヒンクレー大管長(1910 - 2008年)は、次のことを思い起こすように言っています。「善良であるだけでは不十分です。善良であって、何かの役に立たなければなり



ません。世の中の善に貢献しなければなりません。あなたがいるおかげでこの世の中がより良い場所にならなければなりません。問題だらけで、暗く邪悪な挑戦にいつも脅かされているこの世界で、あなたには凡庸と無関心を乗り越える能力と責任があります。あなたは個人的なかわりを持ち、義のために力強い確信をもって語らなければなりません。」<sup>8</sup>

回復された福音の証人になりたいのであれば、末日聖徒の証人の隊列に加わり、あなたの光を人々の前に輝かせてください。福音に基づく生活に、そして、その同じ福音を擁護する生き方に、あなたのイエス・キリストへの深い改心が反映されますように。■

### 注

1. トーマス・S・モンソン大管長「一人でも気高く立ち」『リアホナ』2011年11月号, 60
2. “The Road Not Taken”, The Poetry of Robert Frost, エドワード・コネリー・レーセム編(1969年), 105 参照
3. ダリン・H・オークス「違いがあっても愛し、受け入れる」『リアホナ』2014年11月号, 26
4. トーマス・S・モンソン「一人でも気高く立ち」67
5. topics.lds.org にある福音のテーマの論文は、教会の歴史や教義に関する質問に答えるうえで、特に、役立ちます。
6. リチャード・G・スコット「主は生きておられる」『リアホナ』2000年1月号, 105
7. ニール・A・マックスウェル「弱い者であっても」『聖徒の道』1977年2月号, 46
8. ゴードン・B・ヒンクレー, “Stand Up for Truth” (Brigham Young University devotional, 1996年9月17日), 2. 強調付加

簡潔で単純な質問から始めましょう。ほとんどの状況に当てはまる質問です。しかし、防御をさらに固めるために、関連聖句を研究し、様々な教義を結びつけることもできます。



フォトイラスト/デビッド・ストーカー、写真はイメージです

# 娘の 自殺後に 救われて

娘が自らの命を絶った後、  
わたしにはワードという家族以外に、  
この試練を乗り越える支えとなる  
家族がいませんでした。

ル・エッタ・ソーブ

## 最

近, 友人から不意を突か  
れるような質問を受けまし  
た。愛する人が自らの命を絶った

後で投げかけられる質問は数多くありますが、この友人の心に浮かんだのはこのようなものでした。「15歳の娘さんが自殺してから、教会はどのようにあなたを助けてくれましたか。」

最初はこう考えました。「助けてくれなかった。わたしはだれも寄せつけず、自分の部屋に引きこもり、まったくの孤独のうちに苦しんだ。」

しかし、数日間、いろいろと思い巡らした結果、その考えはとんでもない間違いであることに気づきました。想像を絶する恐怖を体験していたため、判断力が鈍っていたに違いありません。

(すでに亡くなっていた) 娘のナタリーが運ばれてきた病院では、わたしはショック状態で、身も心も、完全にまひしていました。周囲で起こっていることは目には見えても、心で感じることはできませんでした。質問する警官、泣き叫ぶ友人、情報を提供する医療スタッフ、すべてがぼやけていて、それでいて非の打ちどころがないほどに鮮明でした。

元ビショップとその奥さんに会ったのを覚えています。わたしの同僚が、この二人に電話していたのです。娘のナタリーとわたしが彼らのワードから転出したのは、そのほんの数か月前のことでした。ビショップ夫婦は、わたしたちの愛する友人でした。

ビショップの奥さんは、名前が娘と同じナタリーで、自分

たちの家に泊まるように言ってくれました。気がついてみると、この夫婦はわたしを車に乗せ、そのころ住んでいた我が家の近所まで送ってくれました。時間の感覚がまったくなくなっていました。それでもビショップと友人から神権の祝福を受けたのが翌日だったことは理解していました。

葬儀の手配に伴うあらゆることについて逐次知らされてはいたものの、周りで何が起きているのか分かっていませんでした。着替えるように言われたら着替えました。どこかへ行くと言われたら車に乗り込んでいました。単純な命令に従うロボットのような感覚でした。それしかできなかったのです。驚いたことに、涙は一滴も出ませんでした。

娘の葬儀はすばらしいものでした。涙に混じって笑い声もあちこちから聞こえ、御霊みたまにあふれていました。いちばん上の娘のビクトリアが、ほかの州からユタ州に戻って来てくれました。彼女は歌を書き、葬儀で発表しました。葬儀の費用について話を持ちかけてくる人はいませんでしたが、その件はだれかが処理しているということでした。数週間のうちに、費用は教会員の寄付で全額支払われていました。

そのとき、わたしはまだ元ビショップの家に宿泊していました。以前集っていたワードの会員たちがわたしのために新しい住居を探してくれていました。小ざれいな地階アパートに入居できるようになり、気がついてみると、賃貸契約書に署名していました。自分ですべてのことをしたではありません。愛する友人である、ビショップの奥さんのナタリー

を含む教会員たちの連携によって行われたのです。

ワードの会員の助けで、わたしは自分の身の回り品を運び出し、娘のビクトリアとともに新居に落ち着くことができました。最初2か月分の家賃が事前に支払われていました。これもまた教会員の寄付によるものでした。わたしはまだ時間の感覚がなく、情緒的に幾分無感覚な状態でしたが、それでも少しずつ感覚が戻り始めていました。

娘の死から1か月ほどすると、この出来事の実感と重さがじわじわと心に広がり始めました。最初は重苦しく、黒煙が立ち込めていたのですが、そのうちにそれが大きくなってすべてを飲み尽くし、とうとうわたしは完全な暗闇に取り囲まれてしまいました。悲しみには元来、人を盲目にする力があります。

ナタリーは感謝祭の日に亡くなりました。もうクリスマスでした。祝日が来ても、娘を失った事実をさらに痛切に感じるだけでした。何日も何日も、涙がとめどなくこぼれ落ち、その間、容赦ない苦痛を味わうのです。1分が1時間のようになり、1時間が1日のように、1日が1年のように、ゆっくりと過ぎてゆきました。

離婚していたため、外に出て生活費を稼いでくれる夫はいません。できることなら、小さく体を丸め、クローゼットの中に閉じこもり、そこにずっといたいと思ったのですが、そんなぜいたくは言ってもらえませんでした。何とかして働く気力を取り戻し、仕事を見つけなければならなかったのです。感

謝祭の日、わたしには職がありました。しかし、どうしようもなくすっかり混乱して、仕事に行くことを忘れてしまっていました。戻って働こうと思えば働くことができました。しかし、ナタリーはそこに顔を出すのが大好きでした。娘がいなくなった今、その職場に戻ることを考えると耐えられませんでした。

1月の第1週までに、低賃金の仕事を見つけました。普通に振る舞おうと努めました。体は動いていましたが、心は死んでいました。わたしが中身のない貝のようにただ動いているだけだということは、だれも知りませんでした。正直な気持ちになれるのは、車で職場と自宅を往復するときだけでした。

扶助協会の姉妹たちがわたしのことをどう思っているのかまったく知りませんでした。当時は、そのことに大して関心もありませんでした。忙しすぎて、息をしようとするだけでやっとだったのです。きっと、ほうっておいてほしいという印象を与えていたのでしょう。だれもわたしに干渉しませんでした。しかし、実は、時々、わたしに温かくほほえんでくれていました。近くの出口から走り去りたいといつも思っていたのにそうしなかったのは、そのほほえみが、ちょうどよい具合に、小さな心の慰めになっていたからです。

時間は心を癒してくれます。過去の出来事を消し去ってはくれませんが、開いた傷口が少しずつ閉じるようにしてくれます。

あの運命の感謝祭は2011年のことです。教会の兄弟姉妹たちからどれほど助けられたか気づくまでに数年かかりました。重傷を負って戦場から運び出された兵士のようにでした。自立できるようになるまで、いたわり、気にかけてもらいました。

数え切れないほどの祝福が様々な形で与えられました。証あかしがこれ以上ないほど強くなりました。救い主の愛の御腕みうでに抱かれるのがどんな気持ちか、今なら分かります。

ですから、「教会は、あなたがこの苦難を乗り切ることができるよう、どのように助けてくれましたか」という友人の質問に対して、わたしはこう答えます。「助けてはくれませんでした。救ってくれたのです。」■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。

ナタリーはわたしの人生において喜びと笑顔の源でした。彼女を失って深く悲しむわたしを、友人やワードの会員が支えてくれたことに感謝しています。



左—フォートモントベリッド・ストーカー



# 遺族の癒し<sup>いや</sup>

LDS ファミリーサービス

**あ**る人が自分の苦しみを自殺によって終わらせた場合、残された家族（通常「遺族」と呼ばれる）には、複雑で、本人にしか分からないつらい悲しみが湧き上がります。困惑や自責の念、投げやりな気持ち、怒りが増幅します。答えのない疑問が次々に出てきます。自分はどんな兆候を見逃したのだろうか。なぜ自分は導きを受けなかったのか。永遠の報いはどうなるのか。このような疑問があると、ひどく動揺したり、愛する人の死に自分は何らかの責任があると考えようになったりする恐れがあります。



遺族には、非難や批判、偏見を恐れて人と会いたがらなくなる傾向があります。また、遺族の中にはトラウマに関連した症状に苦しむ人がいるかもしれません。遺体の発見者は特にそうです。遺族が悲しみのあまり自分も自殺しようと考えようになる場合もあります。

苦痛や苦悩がこれほど深いにもかかわらず、救い主は、「御自分の民を彼らの弱さに応じてどのように救うかを肉において知ることができるように」（アルマ 7：12）、「万物の下に身を落と〔され〕ました（教義と聖約 88：6；122：8 参照）。それは、「わたしたち〔が〕……恵みにあずかって時機を得た助けを」得られるようにするためです（ヘブル 4：16）。

## 悲嘆に暮れている人へのアドバイス

- 人を責めないでください。特に自分を責めてはいけません。
- 自分の霊を大切にしてください。選択の自由という賜物を信頼して、分からないことがあってもよいと考えるようにし（1 ニューファイ 9：6 参照）、癒し安らかにする主の力に頼ってください（ピリピ 4：7 参照）。
- 自分の体を大切にしてください。きちんとした食生活を送り、よく休み、運動してください。
- 信頼できる人（家族、友人、ビショップ）に支援を求め、

ほかの人の助けを受け入れて危機を乗り切ってください。

- 気晴らしになる健全な活動をしてください。
- 専門のカウンセラーと話すか、または、自死遺族の支援グループに出席してください。
- 早急に癒されるとは考えないでください。忍耐が必要です。

## 悲嘆に暮れている人を慰める人へのアドバイス

- 思いやりをもって接し、責めたり裁いたりしないでください。「憐れみ<sup>あわ</sup>を施す主が望むとおりに」とはど

ういうことかを理解してください（教義と聖約 46：15）。

- 遺族に寄り添い、簡単なことでもよいのでどんな助けができるか遺族に尋ねてください。遺族に付き添って活動に参加してもよいでしょう。
- 忍耐強く話に耳を傾け、遺族がなかなか打ち明けてくれなくても、それが彼らのペースなのだを受けとめてください。
- 「大丈夫ですよ」「この程度で済んで良かった」「お気持ちはよく分かります」「わたしには分かりますよ」「神の御心<sup>みこころ</sup>です」「すべては時が癒してくれます」など、決まり文句を言ったり、気安く断言したりしないでください。
- 答えようのない質問に答えを与えようとしないでください。
- 自分の悲しみと比較しないでください。身内の自殺を経験したことのある人でも、そのときの自分の悲しみと比較してはいけません。
- 故人について遺族と話するときには、自殺ではなく別の原因で亡くなった人について話すのと同じように話してください。
- 動揺している子供たちに、彼らには責任がないことを伝えて安心させてあげてください。
- 身内を亡くした悲しみを癒すそのほかの支援機関（カウンセリング、サポートグループなど）が見つかるよう助けることを申し出てください。■





カヨ・ソピとアンソニー・リナは幼友達です。教会員のカヨは、アンソニーに教会に入ってほしいと思っていました。

写真撮影、レスリー・ニルソン

## カヨとアンソニー

フランス、パリ

アンソニー——

カヨがほかの友達とは違うと知っていました。成長過程にある子供って皆ばかなことをするものですが、カヨはわたしが正しい道を選ぶよう助けてくれました。

8歳から18歳まで、バプテスマを受けることについて随分考えました。時間がかかった理由は、良い原則に従って生きようと努力はしていたものの、自分の生活の中で変えなければならぬことがたくさんあったからです。カヨ——

10年以上かかりましたが、アンソニーはようやくバプテスマを受けたのです。

わたしたちがほんとうに、真の、心からの変化を遂げられるよう、主はできることをすべてしてくださると信じています。末日聖徒となり、キリストの弟子となることは、単に何かについて考え方を考える決断をするといったことではありません。自分の中に深い変化を起こすことなのです。わたしはアンソニーにそんな変化が起きたのを見ました。

カヨとアンソニーの話の詳細については [lds.org/go/91738](https://lds.org/go/91738) にアクセスしてください。

福音を紹介する方法についてダリン・H・オックス長老から学ぶには、[lds.org/go/91739](https://lds.org/go/91739) をご覧ください。

**赤**ちゃんが自分で呼吸し始めたとき、  
まるで「ママ、ぼく、強くなって務めを  
果たすからね」と言っているようでした。

## わが子がこの世を去るのを見守る

**最**初の超音波検査の後に、医師はおなかの赤ちゃんにダウン症の可能性があるとしました。主人とわたしにとってこれは予期せぬことで、わたしの将来のビジョンはたちまち変わってしまいました。

妊娠中ずっと、どうなるのだろうかという疑問や心配でいっぱいでした。それでも、赤ちゃんが生まれてくる準備を入念に整えました。ついにその日がやって来ると、美しい特別な子供が生まれようとしていることを心に感じました。

わたしたちはこの男の赤ちゃんにサンティアゴと名付けました。生まれて間もなく、彼にはダウン症だけでなく、心臓、肝臓、肺に影響を及ぼす深刻な合併症が幾つかあることが分かりまし

た。医師と看護師は、すぐに人工呼吸器と人工心肺装置を取り付けました。病院で日々を過ごしているとき、主人とわたしはサンティアゴをほかの兄弟たちと一緒に、どのように育てるか話し合い始めました。すると、わたしたちがどれほど天の御父の助けを必要としているかについて気づいたのです。

わたしたちの幼い「サンティ」は、人工呼吸器が外せるほどに元気になりました。自分で呼吸し始めたとき、まるで「ママ、ぼく、強くなって務めを果たすからね」と言っているようでした。小さな手でわたしたちの指をぎゅっと握りました。彼は丈夫になりましたが、心臓は持ちこたえられませんでした。心不全を起こし、しばらくすると、彼は天の御父のみもとに帰っ

て行きました。

わたしは、自分がそのような経験をすることは夢にも思っていませんでした。赤ちゃんが生まれてくるのを心待ちにし、赤ちゃんのためにたくさんのことを計画した後に、この世から去るのを見守るのは、父親や母親にとって最もつらいことです。

夫とわたしは、サンティアゴの葬儀の後、神殿に行きました。神殿に入ると、慰めを感じました。いつかわたしの赤ちゃんに会い、彼の母親として楽しく過ごせることが分かりました。神殿と永遠の家族に感謝しています。かわいいサンティアゴと再び一緒にになれるかどうかは、わたしたち次第なのです。■

ロシオ・アルバラド(チリ, サンティアゴ)

## 完全な癒し手であられる救い主

**医**師であるわたしのところに、所定の血液検査に異常が見られた患者がやって来ました。検査後の数日間、彼女はその検査結果が何を意味するかについてインターネットで調べました。わたしたちが面談したとき、彼女は動揺し心配していました。結果を説明しようとしたのですが、彼女はまだ取り乱していました。

「うまくいかないことを考えて、悩まないでください。それはわたしの仕事です。そのためにわたしがいるのです。これについて何をすればよいか知るために一生懸命調べました。わたしたちが一緒にやれば乗り越えられますよ。わたしの指示に従ってください。再び元気になる方法が分かります。わたしを信頼して重荷を下ろし、医療的なことはわたしに任せてください。そうすれば、あなたは良くなることだけに全エネルギーを集中させ

ることができます。」

わたしがこう言うと、彼女の恐れは静まりました。さらに検査をする計画を立て、一緒に前進していくことを約束しました。

数か月後、わたしは自分の生活で困難な問題に直面しました。仕事のプレッシャー、子供が生まれること、予定していた引っ越しなどに押しつぶされそうになりました。いらいらし、不安になり、恐れを抱いている自分がそこにいました。

自分の心配事、罪、いらだちについて熱心に祈りました。祈っていると、御霊が、生活の中での救い主の重要性について証あかししました。まるで主がこう言っておられるようでした。

「どうなるのかと悩まないでください。それはわたしの仕事です。そのためにわたしがいるのです。これについて何をすればよいか知るために、

すべての苦しみを受けました。わたしを信じていてください。わたしたちが一緒にやれば乗り越えられますよ。わたしの指示に従えば、再び元気になります。わたしを信頼して、それらの霊的な重荷はわたしに負わせてください。そうすれば、あなたは最善の自分であることだけに全エネルギーを集中させることができます。」

このことに気づくと、自分の心配事、罪悪感、いらだちを感じなくなりました。主に信仰を持つことで、進歩を妨げる無益な感情が取り除かれ、自分のできることに集中できました。福音に従って生活し、試練にあって救い主に頼ることができました。

医師が身体的な健康に導くのと同様に、完全な癒し手であられる救い主は、恥、心配事、罪悪感、いらいらした気持ちや不安という重荷さえも取り去り、再び霊的に健康になれるよう道を示してください。それは主の仕事であり、主はそれを完璧に行われるのです。■  
マット・リンゼー（アメリカ合衆国、ハワイ州）

「どうなるのかと悩まないでください。それはわたしの仕事です。そのためにわたしがいるのです。」

## 依存症と主の助け

**何**年か前、わたしたち夫婦はわたしの飲酒の問題で離婚しようとしていました。娘の涙でさえわたしを変えることはできませんでした。宣教師がわたしたちの家を訪問したとき、妻と娘がバプテスマを受けるのに時間はかかりませんでしたが、わたしは神に関することを受け入れようとしませんでした。

わたしの生活はアルコール依存症に支配されていたのです。仕事が終わるとバーに行き、酒に酔ってしまったためによく仕事を休んだものです。酒に酔うと、暴力を振るうようになりました。人と口論やけんかになることもよくありました。

わたしが仕事に出かけるとき、娘たちが泣いて、酒を飲まないように一緒

にいると言いました。わたしは飲まないことと約束しましたが、それを守ったことはありませんでした。とにかく飲み続けたかったのです。

結局、自分には助けが必要だと気がつきました。宣教師の助けにより、わたしは依存症を克服しようと努めました。しばらくの間は、1週間以上継続して飲酒をやめることはできませんでした。

ある日、宣教師がわたしの人生を変えることになったモルモン書の一節を分かち合ってくれました。「もし人がわたしのもとに来るならば、わたしは彼らに各々の弱さを示そう。わたしは人を謙遜にするために、人に弱さを与える。わたしの前にへりくだるすべての者に対して、わたしの恵みは十分である。もし彼らがわたしの前にへりく

だり、わたしを信じるならば、そのとき、わたしは彼らの弱さを強さに変えよう。」(エテル12:27)

わたしには救い主の助けが必要でした。主の助けなしに、依存症を克服することはできませんでした。主に頼れば頼るほど、飲酒をせずにいる時間が長くなりました。宣教師が数回来てくれた後、わたしはバプテスマの招きを受け入れました。

それ以来、わたしの人生は変わりました。それから8年以上が過ぎましたが、一滴のアルコールをも飲もうとはしませんでした。今はもう依存症を克服しています。それはすべて主のおかげです。■

ビクトール・ムーニョス・ワルデ  
(ペルー、ワンカーヨ)

**飲**まないと言いましたが、それを守ったことはありませんでした。





母が眠れずに  
苦しんでいるとき、  
聖文を読んで聞かせるように  
という促しを感じました。

## 聖文からの慰め

子供のとき、わたしはリウマチ性関節炎と診断されました。病気がちだったので、両親はわたしを病院に連れて行くのに多くの時間を費やしました。両親はわたしの健康を心配し、悪いところを治せなかったので無力感を覚えていました。わたしは、母が乳がんと闘う姿を何もできずに見守る番になるまで、両親の気持ちを正しく理解することはありませんでした。

ある週末に、母が抗がん剤治療を受けていたので、母と一緒にいるために車を運転してニュージャージー州にある母の家に行きました。一緒にいて、日々の面倒を見てくれる弟を休ませたいと思いました。治療を受けているときは、夜中ずっとだれかが母を見守る必要がありました。それで

居間に、母のためにベッドを置き、わたしはソファで寝るつもりでした。母は痛みを訴えましたが、わたしにできることは何もありませんでした。何もできず、もどかしく感じました。

母が眠れずに苦しんでいるとき、聖文を読んで聞かせるようにという促しを感じました。母は聖文を愛していましたが、自分で読む気力はありませんでした。母に何を読んでほしいか聞くと、アルマ書が好きだと答えました。章の前書きをざっと見ていると、第7章を読むように促されました。

キリストの地上での使命が書かれた言葉を読んでいると、部屋が御霊で満たされました。「神の御子は、あらゆる苦痛と苦難と試練を受けられる。これは、神の御子は御自分の民

の苦痛と病を身に受けられるという御言葉が成就するためである。

また神の御子は、御自分の民を束縛している死の縄目を解くために、御自身に死を受けられる。また神の御子は、……御自分の心が憐れみで満たされるように、……彼らの弱さを御自分に受けられる。」(アルマ7:11-12)

わたしは母が安らかな眠りに就くまで読み続けました。聖文は、母の家に慰め主を招き、母が眠りに就けるようにしてくれました。わたしは聖文の力と、喜んで救い主として働かれ、苦難にあるわたしたちすべてを慰めてくださるイエス・キリストに対するさらに強い証を得ました。■

インガー・デ・モンテシノス  
(アメリカ合衆国、バージニア州)



七十人  
ウーゴ・  
モントヤ長老

# 疑いがもたらす 危険を克服する

**救**い主は、地上で教え導いておられたときに、サタンからの試しをお受けになりました。

「そして、四十日四十夜、断食をし、そののち空腹になられた。

すると試みる者がきて言った、『もしあなたが神の子であるなら、これらの石がパンになるように命じてごらんさい。』(マタイ4:2-3, 強調付加)

サタンは救い主に、御自身の神性に疑いをかけるように仕向けたのです。そのために、「もしあなたが神の子であるなら」という条件句を用いました。

しかし、主は聖文の知識から得られる力を用いて、その誘惑を退けられました。主は『人はパンだけで生きるものではなく、神の口から出る一つ一つの言<sup>ことば</sup>で生きるものである』と書いてある』と言われました。(マタイ4:4)

このイエス・キリストとサタンのやり取りから、サタンがどのようにわたしたちの心や思いに有害な疑いを植え付けようとしているのか、明確に理解す

ることができます。

## ひそかな侵入

わたしが生まれ育ったメキシコのソノラには、ガジュマルと呼ばれる大きな木があります。それらの木は100フィート(30メートル)ほどの高さで、幹は非常に太く、大きく広がった枝に葉が茂っています。近年、これら木々の多くが、「テキサス根腐れ病」と呼ばれる病気に侵されています。木がこの菌に侵されると、数年のうちは何も症状が現れません。しかし、これらの美しい木々の根は次第に菌に侵され、腐敗し、枯れ始めるのです。葉は黄色に変色し、枝から落ちます。そして幹と枝は枯れ、木々は伐採されなければならなくなるのです。

ガジュマルの木を浸食する菌のように、疑いはわたしたちの思いに侵入してくることがあります。それが大きくなるまでほうっておくと、やがて根にまで侵入し、わたしたちの信仰の基盤

巨木でさえも、  
目に見えないかびに浸食されて  
枯れてしまうことがあります。  
信仰についても同様です。  
疑いが大きくなるのを  
ほうっておくと、  
霊的な根が腐り、  
倒れてしまうこともあります。

を腐らせ、ガジュマルの木と同じようにわたしたちも切り倒されてしまうことになりかねません。

いわゆる「友人」から有害な質問をされることによって疑いが芽生えることもあるのです。インターネットのサイトに文脈を無視して載せられた情報によって、疑いを抱くこともあるでしょ



う。しかしわたしたち自身が見捨てられたと感じたり、途方に暮れたり、負っている重荷について疑問に思ったりしているときには、疑いは特に影響力を増すのです。生まれながらの人が口にするような、「主よ、なぜわたしなのですか」や「わたしが主の僕しもべであるのなら、どうしてこのようなことが起こる

のをお許しになられるのですか」などという不満の言葉を、偽りの父はわたしたちの耳にささやくことでしょう。サタンには悪質な目的があります。それは、わたしたちは神の子供であるという確信を弱めることです。

そのような疑いに打ち勝つためには、御父の計画が完全であることを覚

えていなければなりません。否定的な質問に思いを向けるのではなく、ジョセフ・スミスが行ったように力を求めるべきです。「おお、わたしたちの神よ、あなたの苦しんでいる聖徒たちを思い起こしてください。そうすれば、あなたの僕たちは、とこしえにあなたの御名みなを喜び歌います。」(教義と

聖約 121:6) また、主はわたしたちを救い出してくださいと信頼する必要があります。(1 コリント 10:13 参照)

### 強盗に銃口を向けられた経験

疑いを希望に変えることを学ぶ助けとなった個人的な経験があります。当時、わたしはステーキ会長として奉仕していました。子供たちはまだ幼く、妻と二人でトルティーヤ〔訳注——メキシコなどで、トウモロコシの粉や小麦粉で作る薄焼きパン〕の店を営んでいて、長い時間働いていました。

いつものように残業していたある夜、真夜中から午前 3 時までには妻と二人でトルティーヤを作らなければならないときに、3 人の若者が店に入って来ました。3 人とも薬物で興奮した状態でした。そのうち二人はスキーのマスクをして、長いレインコートを着ていました。レインコートで武器を隠していたのです。彼らはわたしたちを脅し、店の中に連れて行き、ドアを閉めました。一人は外で見張りながら、「殺してしまえ!」と何度も叫んでいました。

若者の一人がわたしのこめかみに銃口を押し付け、床に伏せさせました。もう一人は妻の胸に銃口を当てました。わたしは、子供たちが孤児になってしまうことがないように、わたしたちをお守りくださるよう主に祈りました。最終的に、強盗たちはわたしたちをトイレに閉じ込め、わたしのトラックに乗って逃げ去りました。

わたしたちは脱出して助けを求めました。警察とわたしの兄が駆けつけました。できるだけ早く妻を家に送った後、わたしと兄は、トラックを捜しに行きましたが見つかりませんでした。

とても悲しい気持ちで、帰宅したのは朝の 5 時でした。

### 家族はどこへ?

驚いたことに、妻も子供たちも家にいませんでした。4 歳の娘が腹痛で苦しんでいたために、急いで病院に連れて行ったことを近所の人が教えてくれました。娘の治療費のためにお金が必要になると分かったので、店に戻って、その日の注文をこなすしかないと感じました。従業員は妻とわたしだけなので、わたしは一人で大急ぎで生地をこねたり、機械の操作をしたりしてトルティーヤを仕上げ、お客さんが来るのを待ちました。

もう午前 8 時を回っていました。その夜の出来事について思い返してみました。次のような疑問が頭をよぎりました。「自分はステーキ会長だということに、どうしてこんなことが起こるんだ?」

### トルティーヤ以外のことはすべて

わたしはこの良くない思いを隅に追いやり、力を求めて祈りました。そのとき、背後から声がありました。「会長。」それはわたしのホームティーチャーであるビショップとワードの兄弟でした。

ビショップはこう言いました。「わたしたちはトルティーヤの作り方を知らないのです。ここで助けすることはできません。でも、あなたのトラックと、姉妹、病気の娘さんとほかの子供たちのことはご心配なく。会長はここに残って仕事をしてください。後のことはわたしたちがやります。」わたしの目に感謝の涙があふれました。

二人はトルティーヤ以外のことはすべて引き受けてくれたのです。その日



わたしの家族の木の霊的な根は、  
曾祖父の揺るぎない信仰のおかげで、  
6 代にわたって強められています。

の午後帰宅すると、家は掃除と整頓がされていて、わたしのシャツにはアイロンがかけられ、食事の準備ができていました。だれも家にいませんでしたが、扶助協会の姉妹たちが来てくれたことが分かりました。警察がわたしのトラックを見つけましたが、受け取りに必要な手数料はワードのだれかが払ってくれました。

わたしはすぐに妻と娘に会いに行き



ました。すでにビショップが来て、娘に祝福をしてくれていました。盲腸でしたが、状態は安定していました。

妻と話し、ビショップがわたしたち家族を助けるために、断食献金やビショップの倉の品物を使わなかったことにわたしたちは驚きました。ビショップはワードの会員の助けや思いやりを活用したのです。

数日後、わたしの娘は回復のために療養し、妻は店でわたしの手伝いをしていたときに、3人の女性が来ました。彼女たちはあの若い強盗たちの母親で、謝罪するために訪れたのです。警察が息子たちを逮捕したことを話してくれました。その後、その母親たちは、息子たちをほとんど引きずるように店まで連れて来て、救しを求めてきたので、わたしたちは彼らを赦しました。

### 彼らは疑いませんでした

わたしの家族歴史には、疑ってはならないことを思い起こさせてくれるエピソードがあります。1913年、メキシコで伝道していたアーネスト・ヤングとその同僚たちは、わたしの高祖母に当たり、未亡人であったマリア・デ・ヘスス・デ・モンロイとその3人の娘ナタリア、ホビタ、グアダルーベと一人息子のラファエルに福音を宣べ伝えました。このラファエルは、わたしの曾祖父に当たります。彼らは6月10日にバプテスマを受けました。その2か月後、メキシコ革命のために、アメリカ人はメキシコを離れました。

1913年8月29日、レイ・L・ブラット会長とすべてのアメリカ人宣教師たちがメキシコを出国する日に、2か月前に改宗したばかりの34歳になるラファエル・モンロイは伝道本部

を訪れ、彼の懸念を伝えました。「わたしたちはどうなるのでしょうか」と彼は尋ねました。「サン・マルコスには支部が組織されていませんし、わたしたちは神権を持っていません。」ラファエルの心配事を聞いて、ブラット会長は彼に座るように言いました。ブラット会長はラファエルの頭に手を置き、彼にメルキゼデク神権を授け、彼を長老の職に聖任し、サン・マルコス支部の支部会長に任命したのです。

自分のバプテスマの聖約が神聖で、永遠のものであると理解していたラファエルは、福音を分かち合う必要があるということも理解していました。彼は顧問であるビセンテ・モラレスとともに、23か月の間に50人以上の人々を改宗とバプテスマに導きました。さらに何十人もの人々に福音を宣べ伝えました。

そして1915年7月17日に、革命がサン・マルコスの地に及んだのです。革命軍の兵士たちは、ラファエルやビセンテが反革命軍に加わり、支持していたことや、武器を隠していたこと、そして奇妙な宗教に加入していたことを非難しました。彼らは二人を投獄し、拷問し、気絶するまで吊りました。そして兵士たちは、二人に命を救う最後のチャンスを与えました。宗教を捨てれば、命を助けてやると告げたのです。ラファエルはこう答えました。「それはできない。わたしが受けたことが真実であると知っているからだ。」

ラファエルとビセンテは疑いませんでした。二人は自分の知識と証に従って行動したのです。その日の終わりに、二人は自ら信じることのために命をささげ、南部の解放軍によって処刑されました。<sup>1</sup>

### 今でも真実である

この業が真実であることを疑わないようにしましょう。疑いの試しを受けたときには、自分の霊的な経験に思いをはせてみてください。それは、疑いを消し去る助けとなります。これは、専任宣教師としての奉仕から帰還した後に、心に疑いが忍び寄るままにしてしまった人や、長年教会員でありながら、堪え忍ぶことに疲れてしまった人、また最近改宗し、初めはすばらしい喜びを感じながらも、信仰を養ってこなかった人にとって、特に有効です。

もしあなたがこのような状況に陥っているのであれば、こうお伝えしたいと思います。「もしあなたが宣教師になるための申請書を送ったときや神殿に参入したとき、自分が改宗してバプテスマを受けたときやだれかを改宗に導いてバプテスマを施したとき、そしてあなたが結び固めを受けたときに福音が真実であったとしたら（実際に真実でした!）、今でもそれは同じように真実なのです!」

イエスは模範によって、聖文から力を受けられることを示してくださいました。ジョセフ・スミスは、祈り求めることによって慰めを得られることを示してくれました。疑うことなく自らの命をささげた人々は、死に直面しても希望があることを示してくれました。

失望に身をゆだねてはいけません。試練や誘惑は一時的なものだからです。わたしたちは皆、救い主の次の言葉に希望を見いだすことができます。「あらゆる思いの中でわたしを仰ぎ見なさい。疑ってはならない。恐れてはならない。」(教義と聖約6:36) ■

### 注

1. レイ・L・ブラット, Conference Report, 1920年4月, 90 - 93 参照

# 音楽に関する 実験

マーセル・ホール

**幾**つかの福音の標準に関して、自分は運よく例外に当てはまる一人なのだといつも思っていました。どの標準が大切に、どの標準が大切にないかを自分で決めていたのです。自分で選んでよいと思っていた標準の一つは、「不敬で俗悪な音楽を聞かないように」というものでした。（『若人の強さのために』22参照）自分が聞いている音楽が、自分の行いや福音に対する自分の気持ちに影響を与えるとは考えなかったのです。自分にはイエス・キリストへの強い証<sup>あかし</sup>がありましたし、自分なりに人々に仕えたり、教会に集ったりするようにしていたからです。そのような歌を歌っているミュージシャンたちが道徳にかなった生き方をしていないのは残念だけれども、彼らの音楽を聞くのに抵抗はなく、結局のところ、自分が福音に沿った生活を送るのに差し支えな

いだろうと考えていました。

伝道の備えをしている間も、自分が聞いている音楽が霊的な成長を妨げているとは思いませんでした。

しかし、伝道の召しの手紙を開けて間もなく、アルマ第32章27節の「しかし見よ、もしあなたがたが目覚まし、能力を尽くしてわたしの言葉を試し、ごくわずかな信仰でも働かせようとするならば、たとえ信じようとする望みを持つだけでもよい。わたしの言葉の一部分でも受け入れることができるほどの信仰になるまで、その望みを育ててゆけ」という聖句が頭に浮かびました。

そして、そこにある「試〔す〕」という一つの言葉について考えました。自分が受けられずにいた祝福を受けたいと望むならば、試してみる必要がありました。そこで、それから3週間、ふさわしくない音楽を聞かずに過ごしました。初めは大変で、ついうっかり聞いてしまいそうになったことも度々

<sup>あかし</sup>  
自分の証を深め、  
霊的に成長したいと  
望むなら、  
自分の行いに対して  
言い訳するのをやめる  
必要がありました。

ありましたが、数日後には、毎日感じ始めた平安な気持ちのおかげでやり通すことができました。それだけでなく、大学の授業でも成績が上がってきたのです。以前よりも集中できて、生活において天からの導きが特に必要なときには、より御霊<sup>みたま</sup>を感じるできるようになりました。

自分の望みさえも変わったことに気





### 自分の意志を治わせる

「自分の意志を神の御心みこころと一致させたとき  
にのみ、完全な幸福が得られ〔ます〕。それ  
に満たなければ、結果としてより低い幸  
福しか受けることはできません（アルマ  
12：10－11 参照）。……

非常に多くの人が完全な奉獻をためらう  
のは、神の御心にのみ込まれるのが、自己  
を失うことだと思い違いをしているからで  
す（モーサヤ 15：7 参照）。わたしたちが  
ほんとうに心配しているのは、もちろん自  
分を捨てるのではなく、地位や時間、称  
賛、財産など、利己的なものを諦めること  
です。救い主が自分を捨てなさいと教えら  
れたのも、もっともです（ルカ 9：24 参  
照）。主が求めておられるのは、新しい自分  
を得るために、古い自分を捨てることです。  
大切なのは、自己を失うかどうかではなく、  
真の自分を見いだせるかどうかなのです。」

#### 十二使徒定員会

ニール・A・マックスウェル長老（1926－2004年）

「天父の御心にのみ込まれる」

『聖徒の道』1996年1月号、25 参照

がつきました。天の御父がわたしに与えようとしておられるすべての祝福を受けたいと思うようになったのです。自分が聞く音楽の習慣を変えてみることで、自分勝手に従うか従わないかを選べる標準などないこと、そして与えられているすべての戒めはわたしたちと天の御父との関係を深め、より御父のようになるのを助けてくれるという事に気がつきました。気に入らない戒めや標準を無視するのは、神が約束された祝福を拒否することになるのです。

福音の標準と戒めに従うことによって、わたしたちはキリストのまことの弟子として認められるのです。わたした

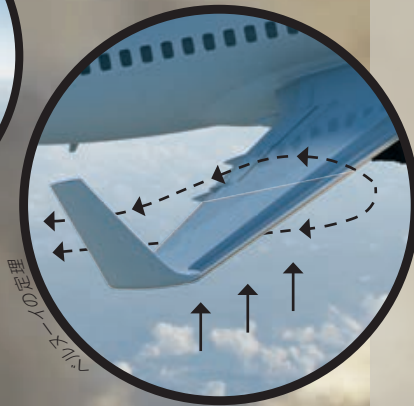
ちが良いものを捨て、より良いものを選ぼうと決心するときに、天の御父にほんとうに喜んでいただけることでしょう。福音においては、従うかどうかの境界線にいることはできないのです。前進するか後退するかのどちらかしかなく、「今はこれで十分だろう」という考えでは、必ず後退してしまいます。しかし、毎日少しでも向上するために、イエス・キリストと主の贖いあがなの力に頼るならば、主の平安を受けて生活し、主が御存じの、わたしたちがなり得る自分に少しずつ近づいていることを知ることができるのです。■

筆者はアメリカ合衆国ユタ州在住です。



# 飛行機が飛ぶ仕組み

飛行機が飛ぶ仕組みから、従順や啓示、そして霊的な導きについて、多くのことを学ぶことができます。



## ⇒ 二つの力

航空整備士として働いていたときに、飛行機が飛ぶためには二つの力が必要だということを学びました。

1. **推進力** — 前方へ進む力で、機体を浮かせるのに十分な速度が必要となります。十分な推進力があれば、「ドラッグ」と呼ばれる空気抵抗をもともしないで前進します。
2. **揚力** — 飛行機の翼の上を通る空気と下を通る空気の圧力の差によって生じる力のことで、ベルヌーイの定理と呼ばれる。揚力は重力に逆らって働き、揚力がないと機体は地球の重力で落下してしまいます。

教会機関誌

リチャード・M・ロムニー

## これはあなたとどのような関係があるでしょうか

簡単な比較を幾つかしてみると、飛行機が飛ぶための原則と福音の原則の間に、洞察を与える類似点が見つかるでしょう。

### ⇒ 霊的な揚力

福音の律法と儀式に従順であることにより、推進力が生まれ、この霊的な推進力により、霊的な揚力が生まれます。それによって前に進み続けることができ、この世よりも高い位置から、天の御父のもとに戻る航路をはっきりと見るできるようになります。

### 🌀 航路の修正

バプテスマを受けた後で、あなたが受けた聖霊たまものの賜物は、最高の霊的なナビゲーション機器です。あなたが従順であり続けるかぎり、細く静かな声が、何をして、どこに行って、どのように行動すればよいのかを伝える促しを常にささやいてくれるのです。それに注意深く耳を傾ければ、あなたを導いてくれるでしょう。

しかし、主があなたの航路を修正するために与えてくださった道具を使うかどうかは、あなた次第です。また、確認すべき項目もあります。常に祈り、聖文を研究し、集会に参加し、神殿のために備え、実際に参入しているでしょうか。また、悔い改めも必要です。これによって、霊的な意味で、姿勢（訳注—航空用語で水平面の傾きを表す）、高度、方向を大幅に修正したり、あるいはわずかな微調整をしたりすることができます。



## 航路の修正

もちろん、飛行機が飛ぶためには、ほかにもたくさんのごとが起きているのですが、多くのことが次の二つのシステムにかかわっています。

1. **ナビゲーション補助機器**は航路どおりに飛行できるようにパイロットを助けます。操縦席にあるメーターやダイヤルなどもそうですし、管制塔とのやり取りで使うレーダービーコンや音声通信機器も含まれます。
2. **フライトコントロール機器**は方向を変えるサポートをします。これには、ラダー（方向舵とも呼ばれる尾翼の可動部）、エルロンやトリムタブ（主翼に付いている小さなフラップ）、大型フラップやスポイラー、スラット、スタビライザー（水平安定板）などが含まれます。これらの装置により、機体を回転、上昇、下降、旋回させて、着陸時には穏やかに地上に戻る事ができるのです。



## 地上におけるサポート

パイロットはグラウンドスタッフ（空港で働く航空会社の地上職員）が頼りです。グラウンドスタッフは、飛行機が飛べるように機体の整備を行ったり、滑走路とゲート間の案内、フライト前とフライト後の点検、そして機体に必要な整備を提案したり実際に整備を行ったりします。グラウンドスタッフは飛行機のメンテナンスと安全に関する責任を負っています。



## 霊的な免許証

パイロットと同様に、あなたも霊的なグラウンドスタッフに頼る必要があります。あなたにとってのグラウンドスタッフは、両親や若い男性または若い女性の指導者、ビショップと顧問、ホームティーチャー、セミナーの教師、そして善良な友人たちです。彼らとの面接は、フライト前後の機体の検査だと考えてください。航空機が定期的に検査されているように、あなたも定期的な面接を通して、飛ぶ準備ができているか確認する機会があります。あなたの霊的なグラウンドスタッフは、あなたの能力を評価し、飛行計画を準備し、霊的な風速や予想される乱気流について助言を与えてくれます。神殿参入のような活動には「離陸の許可」が必要になります。総大会の説教は、すべての飛行機の状態を一手に把握し、広範囲にわたるナビゲーションを担う航空管制官からのメッセージのようなものです。与えられた勧告に従うことが、潜んでいる危険を避ける助けとなるのです。



## フライトの準備

霊的な意味で、わたしたちは皆、飛ぶようにできています。わたしたちは天の御父の子供であり、御父はわたしたちが霊的に高く飛躍するように望んでおられます。神の子供として、わたしたちは空に向かって飛び立つ必要があります。なぜなら、神の助けを受ければ常に新たな高みに到達できるからです。■

このテーマについての詳しい情報は、[youth.lds.org](http://youth.lds.org) をご覧ください。

# あかし あなたの証 とモルモン書

**モ**ルモン書は「この世で最も正確な書物であり、わたしたちの宗教のかなめ石である。そして、人はその教えを守ることにより、ほかのどの書物にも増して神に近づくことができる」とジョセフ・スミスは語っています (モルモン書序文)。モルモン書は、イエス・キリストと回復された福音についての力強い証です。この書物が真実であることを知れば、すべてが変わります。

次の証を書いた人たちは、モルモン書を読んでこの聖典について祈った経験から、心が改まりイエス・キリストと福音を信じるようになりました。モルモン書を真摯しんしに読んで、この聖典について心から祈れば、きっとあなたの人生も変わります。

モルモン書によって  
人生が変わった  
3人の青少年の  
話です。



## とにかく読んで 祈ってみて

マイケル・ピーク  
(アメリカ合衆国, アイダホ州)



わたしが17歳のとき、ある友人が、自分はモルモンだと話してくれました。当時はモルモンのことをまったく知りませんでした。親はわたしを無理に教会へ連れて行こうとしなかったのも、わたしは聖書や神のことをよく知りませんでしたし、特に知りたいとも思いませんでした。友人には「モルモンを知りたくなったら自分で調べるよ」と伝えました。

わたしが教会についてあまり関心がない様子を見た彼女は、ただモルモン書をわたしに渡すと、読んで祈ってみてほしいと言いました。彼女は何も強要せず、教会に関心を示さないわたしに気を悪くすることはありませんでした。彼女がわ

たしに望んだのはただ、読んで祈ることでした。

その日の夜、もらったモルモン書を開くと、冒頭に彼女の証あかしが書いてありました。彼女の証を読みながら、わたしはもっとこの本について知らなければならぬと感じました。まずはニーファイ第一書から読み始めたのですが、読むのを止められませんでした。もっと知る必要があると思ったのです。

しばらくしてわたしは彼女の家族の家庭の夕べに招かれ、そこでイエス・キリストの福音について教わりました。福音についてまったく知識がないのに、なぜかすべてがしっくりくるのです。もっと知るにつれ、教会、神、そしてイエス・キリ

ストに対する考え方が変わっていきました。人生で初めて、神がわたしに望まれることをしたいと思ったのです。やがてわたしは宣教師から福音を学び、バプテスマを受け、末日聖徒イエス・キリスト教会の会員として確認を受けました。

モルモン書はわたしの人生を変えました。思い返せば、わたしはもっと学びたいと思ったのも聖霊の導きがあったからに違いありません。福音のおかげで、自分がどんな存在なのか、どこから来たのか、そして、忠実であればどこへ行けるのかを知ることができました。福音をわたしと分かち合うだけでなく、真の友は福音の真理を伝えるのだということを実際に見せてくれた友人に感謝しています。



## 預言者の 勧めを 受け入れる

ポーシャ・マージョリー・J・  
アルヴァーロ  
(アメリカ合衆国, テキサス州)



わたしの家族はわたしが11歳のときにフィリピンからアメリカへ移住しました。最初は周りになじむのに苦労しましたが、一旦英語がしゃべれるようになると、すぐに流行を追い始めました。ポップスを聴いたり、髪型をいろいろ変えてみたり、はやりの服を着たりするのが大好きでした。わたしに証はなく、態度は反抗的でした。

預言者の勧めを受け入れて、モルモン書を真剣に読んで学ぼうと決めたときに、人生は大きな変化を迎えました。モルモン書を最初から最後まで読みました。とても心地良く、素晴らしいと感じました。でも、モルモン書が真実なのかどうか、まだ確信を持っていませんでした。

少し緊張しながら、わたしはモロナイ書第10章4節から5節に書かれているモロナイの約束を試してみました。天使が現れることを期待しましたが、何も起きませんでした。「これだけ?」と思いました。

がっかりしつつも、そのままモルモン書を学び続けました。ある夜、モルモン書に関する夢を見ました。目が覚めると、胸は熱く燃え、心は平安と確信に満ちていました。「これだ。これがわたしの答えだ。」

この経験の後、わたしの自信は飛躍的に向上しました。勉強の成績が上がり、学校行事にもっと参加するようになり、そして何より重要なのは、教会にとっても活発になりました。わたしは今でもモルモン書を研究し、その教えを日々の生活で実践しています。モルモン書を読んでいるときに得た経験は、わたしの人生で心の支えとなっています。



# わたしを救った本

匿名



わたしたち家族は、わたしが12歳のときに教会に入りました。その贈り物がどれほど大きな意味を持つのか、当時は知る由もありませんでした。教会が真実かどうかすら分かっていなかったのです。でも、父も母も宣教師が伝えるメッセージに感銘を受けていました。わたしも宣教師が好きでしたが、何を言おうとしているのかはよく理解できませんでした。そのうち彼らからバプテスマを勧められ、家族全員が同意するならばみんなで教会に入ることにしました。わたしは同意し、バプテスマを受けましたが、心は改まっていませんでした。

教会やセミナーに出席するようになりましたが、わたしの家族はしばらくして教会から離れていきました。わたしは教会に友人がいて、彼らと会うためにセミナーやミューチャルに行きました。福音や教義に興味はなく、教会は大体つまらないと感じていました。そのうち万引きや破壊行為などに手を出してしまい、人生は乱れていきました。父は暴力を振るうようになり、わたしは自殺を考えたりもしました。

でも、自殺という選択肢はあり得ませんでした。とても愛していた母にそのような仕打ちをすることはできなかったからです。ですから、わたしは自分で答えを見つけなければなりません。周りに目を向けると、教会の友人たちが目に入りました。彼らにあってわたしにないものは証あかしでした。バプテスマから4年たった16歳のときに、わたしは初めて

腰を据えてモルモン書を読んだのです。

とても難しく、読み終えるまで2年近くかかってしまいました。救い主が復活後にニーファイ人を訪れて子供たちを祝福され、天使が天から降って彼らを取り囲んだことが書かれている第三ニーファイを読んでみると、まるでわたしもニーファイ人の中にいて、その奇跡的な出来

事を自分の目で見ているような気持ちになりました。そのすばらしい瞬間について聖霊が証してくださいました。

涙で目がかすみ、それ以上読むことができませんでした。落ち着きを取り戻してから、続きを読みました。数週間が過ぎて最後まで読み終えると、わたしはひざまずき、真実であるかを知るために祈りました。でも、答えは得られませんでした。

この書物が真実なのか、教会が真実なのかを知ろうと、ひざまずいて祈る日々が続きましたが、それでも答えは得られませんでした。モルモン書を読み終えて何週間もたったある日、絶望しながらもわたしはもう一度ひざまずき、尋ねたのです。「天のお父様、モルモン書は真実なんでしょうか。」受けた答えは思いがけないものでした。「わたしはすでにあなたに告げました。あなたはそれが真実であると知っているはずです。」

キリストが子供たちを祝福された場面を何週間も前に読んだとき、わたしは証を得ていたのです。預言者によって回復され、昔のように今も預言者によって導かれるこの教会、末日聖徒イエス・キリスト教会が地上における神の王国であることを、わたしは知っていました。

モルモン書がわたしの命を救ったと言っても決して大げさではありません。ですが、回復された福音がわたしを救い、毎日わたしを新たな者とし、養い続けてくれていると言った方が正しいかもしれませぬ。それはこの上ないわたしの宝物です。■

## 自分で 知ることが できます

モルモン書の証あかしをすでに得ている場合でも、自分で得たいと思っている場合でも、モルモン書を読み、モルモン書について祈ることで改心を深めることができます。

モルモン書によってわたしたちは皆イエス・キリストに近づくことができるのです。モルモン書を読めば、イエスがキリストであられること、ジョセフ・スミスが預言者であること、そして末日聖徒イエス・キリスト教会がこの地上における神のまことの教会であることを理解できることでしょう。ページを開きながら心も開けば、人生がどんなに好転し得るかが分かります。

# 25

# の真理

# モルモン書

## 祈

りをもってモルモン書にある真理を研究すると、生活を導き、あなたやほかの人が持つ質問に答えるのに必要な霊的な知識を得る助けとなります。ここに挙げるのは、セミナー、家庭、教会でモルモン書を研究するとき学ぶことのできる真理の例です。それらについて研究し、深く考え、祈りながら、これらの重要な真理に対するあなたの理解、証、改心<sup>あかし</sup>を深めるために、学んだことを分かち合う方法を深く考え、行動してください。



**モルモン書**は、  
聖書にあるキリストに  
ついての証を  
土台としています。

1 ニーファイ 13:26-29, 39-42

わたしたちは、  
**信仰、熱心さ、  
従順**を通して  
**神から  
導きを  
受けます。**

1 ニーファイ  
16:27-29

**モルモン書**は  
神の賜物<sup>たまもの</sup>と  
力により  
翻訳  
されました。

2 ニーファイ 27:  
6-23



わたしたちは**イエス・キリスト**に  
よってのみ救われます。

2 ニーファイ 25:19-20

**イエス・キリスト**は  
救い主であり、  
**ジョセフ・スミス**は  
主の選ばれた預言者です。

モルモン書の序文



戒めを守ることができるよう  
**神は常に道を備えておられます。**

1 ニーファイ 3:7

＝キリスト＝  
の言葉は、  
わたしたちが  
なすべきことを  
教えてくれます。

2 ニーファイ 32:3



神の勧告に  
従うならば、  
**学識を得ることは  
よいことです。**

2 ニーファイ 9:28-29

神は御自身の  
すべての  
子供たちを  
愛しておられます。  
2ニーファイ26:33

御<sup>み</sup>霊<sup>たま</sup>  
は  
真理を  
伝えます。  
ヤコブ4:13

わたしたちは、ほかの  
人々に**仕える**ことにより、  
神に**仕えます**。  
モーサヤ2:17



生まれながらの人は  
神の敵です。

.....モーサヤ3:19.....

神は  
すべてのことを  
御存じて、  
あらゆる真理の  
源です。  
モーサヤ4:9

わたしたちは、  
バプテスマを  
通して主と聖約  
を交わします。  
モーサヤ18:8-10



主は、試練に耐える  
力をわたしたちに  
与えてくださいます。

モーサヤ23:20-24;  
24:13-15

イエス・キリスト  
は、わたしたちの  
罪、苦痛、  
病気のために  
苦しわれました。  
アルマ7:11-13

信仰とは、  
完全な知識では  
ありません。  
アルマ32:21



若いうちに、  
戒めを守ることを  
学びなさい。  
アルマ37:35

キリストは  
堅固な  
土台です。  
ヒラマン5:12



主は、預言者を通して  
語られたすべての言葉を  
成就されます。  
3ニーファイ1:1-26

神は、わたしたちの信仰と  
御<sup>み</sup>心<sup>こころ</sup>により奇跡を行われます。  
モルモン9:20-21

信仰  
とは、真実で  
ありながらも  
まだ見ていない  
ものを**待ち望む**  
ことです。  
エテル12:6



わたしたちは、  
イエス・  
キリストの  
御<sup>み</sup>名<sup>な</sup>によって  
祈ります。

3ニーファイ18:15, 20-21

慈愛は、  
キリストの純粋な愛です。  
モロナイ7:45, 47-48



モルモン書を読み、深く考え、  
祈るときに、わたしたちは  
証を得ることができます。  
モロナイ10:3-5 ■

# 聖文

## 1日 10分

教会機関誌

ハドリー・グリッグス

これに似たような聖文研究の目標を立てたことがありますか。「今日から、わたしは毎日1時間きちんと聖典を研究します。これを完璧にやります。」

このような目標を作ったとしたら、結果はどうなるのでしょうか。恐らくあまりうまくいかないでしょう。新しい習慣を作るのはほんとうに難しいことがあります。特に、(すでに書いたような)現実的でない目標をつい立ててしまって、すぐに疲れてしまったり、圧倒されたりするのです。

聖文研究をほんとうに習慣にするには、小さいことから始めるのが最善の策です。十二使徒定員会のゲーリー・E・スティーブソン長老は、素晴らしい提案をしています。「多くの若者が1日に平均7時間も、テレビやコンピューター、スマートフォンの画面を見てい[ます]。……毎日の画面を見る時間、特に、ソーシャルメディアやインターネット、ゲーム、あるいはテレビに使う時間の一部を、モルモン書を読む時間に換えてみませんか。……たとえ毎日10分だけ[でもいいのです]。』<sup>1</sup>

わたしたちは、5人の青少年に、スティーブソン長老の招きを实践するようお願いしました。彼らは毎日画面を見る時間を記録して、そのうちの10分間をモルモン書の研究に置き換えました。どうなったと思いますか。彼らの経験を聞けば自分でも試してみたくなるはずです。

5人の青少年に、毎日画面を見る時間のうち10分間をモルモン書を読む時間に置き換えるというスティーブソン長老の招きを实践してみるようお願いしました。



「最初の週に、自分がソーシャルメディアに使っている時間を記録した後、

自分が携帯電話に費やしている時間の量にちょっと驚きました。モルモン書のためにそのうちの幾らかの時間を使うのはわたしにとって絶対に良い考えだと思いました。特に、熱心に聖文を読むことは得意なことではなかったからです。

皮肉なことに、朝聖文を読み始めたころに、ひどい日がありました。でも、聖文を読むことはわたしの生活を必ず良くしてくれると知っていたので読み続けました。

毎日読むことの最も素晴らしい影響は、御霊と波長が合うようになったと感じたことです。決断するのが容易になりました。周りの人々に対してもっと愛を感じるようになり、仕えたいという気持ちが強くなりました。朝聖文を読んだときは、その日一日がうまく行きました。夜に読むと、よく眠れました。みんなにこれをやってみよう強くお勧めします。その違いにびっくりしています。」

ブリン・C, 18歳  
(アメリカ合衆国, ユタ州)



「自分の携帯の使用状況を記録してみたところ、ほとんど日曜日に使っていることに気がつきました。救い主に近くなるように努力するべきときなのに、代わりに画面を見つめていたということに悲しく感じました。

聖文を読み始めるに当たり、毎晩寝る前の10分間、一晩におよそ1章を読むことにしました。これを始めると、以前よりも容易に眠りに就けるようになったことに気がつきました。また、1週間を通して良い選択ができるようになり、自分自身について良い気持ちを感じるようにもなりました。

この招きを受けられたことに感謝しています。1日10分間読んで、夜のお祈りをすることを続けていくつもりです。」

ライアン・E, 16歳 (アメリカ合衆国, アラバマ州)



**「携帯電話の使用状況を記録するように言われるまで、こんなに多くの時間をソーシャルメディアに使っているとは思いませんでした。そのとき、ソーシャルメディアがどれほど自分の生活の多くの時間を奪っているかに気がつきました。**

毎日聖文を読むことに焦点を当て始めるとすぐに、モルモン書を読みたい気持ちを感じ、そこから学びたいと思うようになりました。毎日10分間読むにつれ、ますます物語に興味がわいてきました。そう決めてから途中で、読む前に自分の質問に対する答えを見つけられるように祈るようになり、聖霊を通して例外なくその答えを受けました。

神が聖文を通してわたしたちに語りかけられること、そしてモルモン書がイエス・キリストのもう一つの証であることを知っています。熱心に祈りをもって聖文を研究することを通して、わたしたちの生活はほんとうに祝福されます。これに参加できてとても感謝しています。同じようにやってみることを皆さんにもお勧めします。人生を変える経験になりました。」

シドニー・B, 16歳 (アメリカ合衆国, アリゾナ州)

**「使用時間を記録する前は、**時間を取って聖文を読むなんてすごく大変なことだと思いました。でもどれだけ自分がソーシャルメディアに時間を使っているかが分かると、そのうちの10分間を使うことはまったく簡単なことでした。昼休みか、セミナーが始まる直前に読むことができました。

聖文を読んだ後は、ソーシャルメディアで見えるものにもっと注意を払うようになりました。汚い言葉や否定的なメッセージを含んだ悪いものを目にしたら、以前よりも敏感にそれに気がついて避けるようになりました。祈りがさらに誠実なものになり、その答えをよく受けていることにも気づきました。これをもっと長く続けていきたいと思っています。」

イジー・J, 16歳  
(アメリカ合衆国, カリフォルニア州)



## 「読むのを数回忘れたことがありました

が、全体としてみれば成功でした。スティーブソン長老の招きを始める前は、毎晩約3分間読むだけでした。それを10分に増やすことで生活に違いを見いだしました。読むときにもっと御霊と調和しているように感じ、毎日祝福として霊的な守りを感じます。しばらく読んでいないと、読み始めるのが大変になるように、読むことがいったん習慣になると、読まずにはいられなくなりました。

わたしの場合、寝る前に聖文を読むとき、たいてい居眠りをしたり、読んだことから何も得られなかったりすることに気がつきました。それで朝か放課後に読むのが最も良いと分かりました。

やってみてほんとうに楽しかったので、皆さんにもやってみようチャレンジします。」

レイチェル・A、15歳、(アメリカ合衆国、コロラド州) ■



**自**分でもやってみたいですか？ この目標を成功させるための8つのヒントについての記事「[新年のチャレンジ—聖文研究の8つのヒント]」を、青少年のためのウェブサイトで見てください — [lds.org/go/91761](https://lds.org/go/91761)

注

1. ゲーリー・E・スティーブソン「モルモン書に目を向け、主に目を向ける」『リアホナ』2016年11月号、46-47

# 押しつぶされそうですか？

「多くの大切な  
ことの中から  
どのようにして  
道を見いだす  
べきでしょうか。  
物の見方を簡潔にし、  
純粹にする  
必要があります。  
邪悪で避けるべき  
ものもあり、  
良いものもあり、  
大切なものもあり、  
絶対に不可欠な  
ものもあります。」

十二使徒定員会  
ニール・L・アンダーセン長老、  
2007年4月総大会



# そこが知りたい

繰り返し犯していた罪を、助けを受けながら、ようやく悔い改めました。でも、また以前の自分に戻るのではないかと心配しています。どうしたら誘惑に負けずに幸せでいられるでしょうか。



身近な家族や友人が教会に疑問を抱いて、道を踏み外しそうなとき、どうしたらいいのでしょうか。

その不安を、イエス・キリストとその贖罪<sup>しよくざい</sup>を信じる信仰に置き換えてください。また、あなたを高め、変えてくださる主の力を信じ、主の愛と憐れみを信じてください。天のお父様とイエス・キリストのことを思い起こし、御<sup>お</sup>方<sup>みかた</sup>があなたをどれほど慈しんでおられるか、思い出してください。謙遜<sup>けんそん</sup>になって、祈り、聖文を研究し、忠実でいてください。(モーサヤ4:11-12 参照) そうすれば、喜びを受けることができます。その喜びとは、「イエス・キリストが教えられたとおりに、意識的に義にかなった生活を送ろうとすることで得られる賜物<sup>たまもの</sup>」なのです。<sup>1</sup>

完全な悔い改めは難しいことがあります。時間が掛かることもよくあることです。特に、罪を繰り返していた場合にはそうです。誘惑に陥りそうな状況を避けましょう。毎日の生活スタイルや周りの環境、そして友人を変える必要があるかもしれません。もし失敗したとしても、悔い改めることも変わることもできるのだということを忘れないでください。努力し続けてください。あなたの天のお父様も救い主も、あなたをお見捨てになることはありません。「どんなに難しくとも、またどれほど長い間、何度罪が繰り返されてきたとしても、贖罪はあらゆる汚れを洗い清めることができます。」<sup>2</sup> ■

**教** 会が真実かどうかについて身近な人が疑問を持ち始めても、彼らに愛を示し、ぐらつかないでください。その人たちが教会について話し始めたら、あなたは自分が正しいということを証明しようとするのではなく、彼らがどんな気持ちでいるのかということに心を向けましょう。彼らが疑問を持ったり疑いを抱いたりすることで罪悪感を持たないようにしてあげてください。たとえあなたがショックを受けたり傷ついたりすることがあっても、表情に出さないでください。できれば彼らの疑問について穏やかに話し合い、答えを見つめられるよう助けてあげてください。そして彼らが今持っている信仰や信念<sup>あかし</sup>、証を大切にしよう助けます(必要なら [lds.org/go/91763](https://lds.org/go/91763) [「マスター教義に関する基本文書—霊的な知識を得る」] を参考にしてください)。

もし教会とかわりたくない人がいたとしても、あなたとその人との関係まで終わりにする必要はありません。愛と優しさを示し、彼らのために祈ってください。教会や福音において共有できるものにならなくなったとしても、一緒に楽しめるものを大切にしてください。教会と彼らの関係だけではなく、彼らのことを気にかけていることを伝えましょう。でも、あなた自身の霊的な目標も捨てないでください。彼らを支えようと努め、彼らのせいで落ち込まないでください。■

注  
 1. ラッセル・M・ネelson「喜び — 霊的に生き抜く道」『リアホナ』2016年11月号, 84  
 2. ボイド・K・パッカー「幸福の計画」『リアホナ』2015年5月号, 28



大管長会第一顧問  
ヘンリー・B・  
アイリング管長

## 聖霊を招くには

**聖**霊の影響を感じているということをわたしが自分で分かる方法の一つは、光を感じ、幸せな気持ちであるかどうかです。聖霊がわたしから遠ざかっておられるように思うときは、暗さを感じ、幸せな気持ちではありません。わたしは生涯で、そのような光と幸せという潮の満ち干を実感してきました。皆さんもきっとそうだと思います。

わたしはそういう光を感じていたいですし、幸せでいたいと思います。聖霊の助けを受けたいと思うようになるまで、困難や試練を受け続ける必要はありません。聖霊を**伴**侶とするとはどういうことなのかを**覚**えていることを**選**ぶことができます。そして、そう選んだときには、わたしは再びその祝福を受けたいと心から望みます。

聖霊を受けたいと望み、またそれに伴う心の平安と喜びとを受けたいと願うなら、わたしたちは何をすべきか分かっています。それを求めて信仰をもって**神に願い求めます**。聖霊を伴侶とするには**信仰の祈り**が必要です。その信仰とは、あらゆるものの創造主である父なる神が生きておられ、わたしたちが聖霊を受けよう望んでおられ、慰め主を送りたいと願っておられるという信仰でなければなりません。また、イエスがキリストであり、わたしたちの罪を**贖**い、死の縄目を断ってくださったという信仰です。その信仰をもって、わたしたちは**敬虔**な思いで、また神は必ずこたえてくださるという確信をもって**御父に願**おうとします。その信仰をもって、わたしたちはイエス・キリストの真の弟子として主の名によって**祈り**を閉じます。深く悔い改めて、主の僕によってバプテスマを受け、主の大義のために忠実に奉仕してきたことで、自分はすでに清められていて、聖霊を伴侶とするという、願い求める祝福を受けるために必要な清さやふさわしさを身につけてきたと確信して閉じるのです。■

2005年1月25日、ブリガム・ヤング大学アイダホ校におけるディボーションでの説教から。



### どのように 当てはめましたか

わたしは祈りの力と、心を清く保つこと、そして福音の標準に従おうと努力することを通して聖なる御霊を受けます。御霊の役割について学び、理解することは、継続的なプロセスです。そして、救い主が求めておられることに従うことによって、主の求めに応じて行動しようという望みは大きくなり、もっとキリストのような者となることができるのです。

ケイティ・S (17歳)、  
ニュージーランド、オークランド地区

# わたしたちのスペース

## セミナーの祝福

**セ**ミナリーを受けて2年目のとき、クラスには生徒が3人しかいませんでした。でもすばらしい教師がいて、喜んで福音の教えを分かち合ってくれました。あるクラスでわたしたちは、ジョセフ・スミスとその兄ハイラムの死後、どれほど多くの人が教会は分裂すると思っていたのか学びました。しかし、教会の初期の会員の中には、この教会は神の教会であって、人の教会ではないということを忘れずにいる人々もいました。教師は、この教会はイエス・キリストの教会だから倒れることはないと教えてくれました。

わたしたちの生活がそのレッスンの

おかげで変わったことは間違いありません。その日の午後、わたしたちは、心と勢力と思いと力とを尽くして主に仕えようと決意し、専任宣教師として奉仕する準備を始めました。セミナーにも続けて出席しました。

その後の2年間、セミナーに出席することで、生活が祝福され、主に仕える備えをすることによって証が<sup>あかし</sup>強まり、仕えようという望みも深まったと実感しています。

セミナーに出席することで、自分が天父にとって特別な存在であることを確信できました。おかげで福音の教えを生活に応用できるようになりました。とりわけ、福音は日曜日だけに

実践するものではないことを理解するようになったのです。セミナーによって、伝道に出たいという望みが確信に変わりました。セミナーの祝福が今なお生活にとどまっていることに何の疑いもありません。簡単なことではないかもしれませんが、でも、セミナーに出席しようと思えば、主はわたしたちを祝福し、心からの願いを実現するために必要な力を与えてくださるのです。■

ペゴナ・C、エクアドル、グアヤキル











## 難民を支援する

タイの青少年は、バンコクにいる難民のために、教会員から寄付されたものを使って100組以上の衛生キットを一緒に作りました。この衛生キットは、救援を求めて世界中からタイにやって来る難民を助けるために、地域の様々な団体にあてて発送されました。この複合ステークによる特別なユースカンファレンスは、1966年11月2日にヒンクレー大管長(1910-2008年)によってタイが福音を<sup>あかし</sup>宣べ伝える地として奉獻されてから50周年を祝う、全国的行事の一環として行われたものです。

# 総大会で数える

総大会で聞こえてくるいろいろな言葉に注意をはらうために、楽しい方法があります。お話の中で、その言葉が聞こえる度に、四角の中にお金や豆を置きましょう。一つの言葉が5回聞こえたら、ちがうお金やちがう色の豆に取りかえてもよいでしょう。何も書いていない所には、大会で聞けると思われるほかの言葉を書き入れましょう。

 <p>イエス・キリスト</p>	<hr/>	 <p>預言者</p>	<hr/>
<hr/>	 <p>贖罪</p>	<hr/>	 <p>天の御父</p>
 <p>愛する</p>	<hr/>	 <p>家族</p>	<hr/>
<hr/>	 <p>聖文</p>	<hr/>	 <p>子供</p>

# キリストの絵



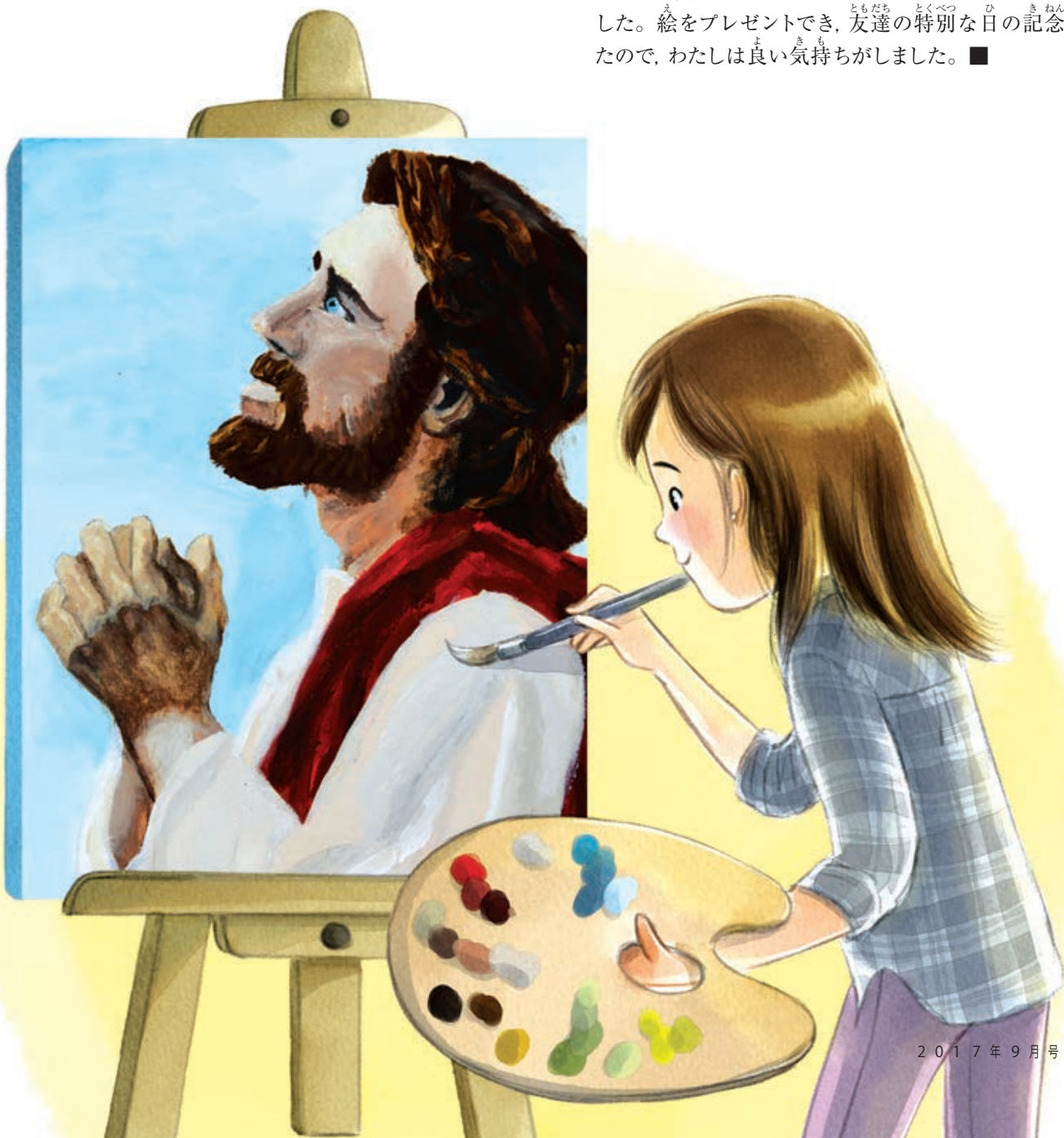
テスラ・S, 11才 (アメリカ合衆国, ユタ州)

毎週日曜日の夜になると、わたしはお父さんと一緒にすわって、「神への信仰」の冊子の目標について話し合います。才能をのばすためにわたしが達成したかった目標の一つは、キリストの絵をかくことでした。

その目標を立てた後、学校の友達が、彼女にとっての「最初の聖体はいりょう」にさそってくれました。最初の聖体はい

りょうは、カトリック教会ではとても特別な機会です。そのとき、初めて聖餐を受けることができるのです。友達は、最初の聖体はいりょうのためにたくさんのじゅんびをしました。わたしはそれが彼女にとってどんなに大切か知っていました。

わたしは彼女へのプレゼントに、キリストの絵をかこうと決めました。その絵をかくために一生懸命がんばりました。絵をかき終わった後、すてきながくぶちを買って、それに絵を入れて、友達にあげました。彼女はとても感謝してくれました。絵をプレゼントでき、友達の特的な日の記念になったので、わたしは良い気持ちになりました。■





# ジェーンの えら 選び

ジェシカ・ラーセン

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

1842年、コネティカット

「主はわがかい手……」自分の周りで音楽がひびいていましたが、  
主ジェーン・エリザベス・マニングは、歌詞に心を向けることができ  
ませんでした。じっと自分の手を見つめながら、深く思いめぐらしていま  
した。

彼女は1年前に長老派教会に入りました。でも、まだ何かが足りない  
ように感じていました。「わたしはもっと何かをさがし求めているわ」と思  
いました。でも、それは一体何なのでしょう。  
教会の集会が終わった後、ジェーンは集会に集まっていたほかの人々と  
一緒に外に出ました。葉っぱは赤や金色に変わりつつありました。太陽の  
光が近くのノーワーク川にかがやいていました。

「巡回宣教師が町にやってきました」と男の人が言いました。「かれは  
モルモンで、神が預言者にふたたび語っておられると言っている。」

ジェーンは立ち止まって耳をかたむけました。自分がさがし求め  
ているのはこれだろうか。

「預言者だって？」別の男の人がばかにしたように言いました。  
「聖書に出てくるような？ そんなメッセージ、だれが聞きに行くつ  
ていうんだい？」

「わたしは行くわ！」ジェーンは思わずさげびました。牧師を  
ふくめて数人の人が、ジェーンの方を向いて、彼女を見つめま



した。ジェーンは、ほおが熱くなるのを感じました。

牧師はいやそうな顔をしました。「話は聞きに行かない方がいいと思うがね。ばかげた話だ、まったく。分かるかね？」ジェーンが何も言わないでいると、牧師はうなずいて、ほかの人と話しに行ってしまうました。ジェーンは牧師が行ってしまうのを見てから、急いで家に帰りました。

家と言っても、お母さんやきょうだいたちが住んでいるわけではありません。ジェーンの家は、フィッチさんの農場でした。6才のとき、召使いとしてそこに住むようになったのです。毎日一生懸命に働いて、フィッチさんのおくさんがせんたくやアイロンがけや料理をするのを手伝いました。ジェーンはたいいてい太陽がのぼる前に起きました。火を起こして、パンをこねて、バターを作るために材料をかきまぜました。できるときはいつでも、自分の家族に会いに行きました。

2, 3日後、ジェーンはフィッチさんのシャツをほしながら、まだ宣教師のことを考えていました。強い風を受けて、せんたく物がバタバタとゆれました。

牧師からは行かないようにと言われましたが、ジェーンは行く必要があると思いました。このモルモンの人が、自分がさがしもとめている真理を見つけるように助けてくれるかどうか、確かめる必要があると思ったのです。せんたく物をほし終わるころには、もう決心がついていました。だれが何と言おうと、集会に行こうと思いました。

日曜日、ジェーンは夜明け前に起きて、一番良いワンピースを着て、一人で集会所に歩いて行きました。静かに中に入り、集会所の後ろの木製のベンチにすわりました。大勢の人がいるのを見て、にっこりしました。別のものをさがし求めているのは、自分だけではなさそうでした。

ワンデル長老が立ち上がると、部屋が静まり返りました。かれがモルモン書とジョセフという名前の預言者について話しているうちに、1時間はあっという間にすぎました。キリストと同じように、人々は水にすずめるバプテスマを受けることができると言いました。聖徒たちは遠いノーブーという町に集まっていることについても話しました。集会が終わるときには、ジェーンはむねがいっぱいで息もできないほどでした。



そのばん、ジェーンは家族をおとずれました。

「それで、宣教師のメッセージについてどう思った？」ジェーンが日曜日をどうすごしたかを話すと、お母さんが聞きました。

「宣教師は真実の福音を話してくれたと、心から確信したわ」と言いました。「受け入れなければいけないわ。来週の日曜日、バプテスマを受けようと思うの。」

「バプテスマ？ ちがう教会に入るの？」お兄さんのイサクがいすを引きよせながら言いました。

「そうよ！ ずっとさがして求めてきた真実なんですもの。」

イサクには、ジェーンが本気であることが分かりました。「その後はどうするの？」静かにたずねました。「バプテスマを受けた後はどうするつもりなの？」

「聖徒たちのところに行くわ」とジェーンが言いました。「ノーブーに行くつもりよ。」

つづく■

このお話を書いた人は、アメリカ合衆国テキサス州に住んでいます。

# わたしたちのページ



ヤジエル・B, 10才 (アルゼンチン)

この日は幸せな日でした。この写真は、モルモン書を読み終えた日の写真です。ぼくは、たくさん  
のことを学びました。ニーファイは神様から命じられた  
ことすべてに従順だったことや、息子アルマが教会を  
迫害して歩き回っていたことを知りました。アルマ  
はその後、天使のおとずれや両親のいのりのお  
かげで、くい改めて、福音を伝えました。

お父さんとお母さんが、毎日モルモン書  
を読むようにはげましてくることに感謝して  
います。そして、初等協会の先生たちが、  
「神への信仰」のノートを通して、この目標  
を果たせるように助けてくれるので感謝  
しています。

セバスチャン・C, 10才 (ベネズエラ)



わたしは、イエス・キリストと天のお父様とせいらいを愛  
しています。わたしは、復活できると知っています。せいら  
いの温かい気持ちを感じることができます。天のお父様は、  
イエス・キリストをつかわされました。わたしは天のお父様  
やイエス様のようにになりたいです。

ガブリエラ・F, 8才 (ブラジル)



「家族は永遠に」ルビ, 8才,  
「日の栄えの栄光」レベッカ, 8才  
(エルサルバドル)





# ふじょきょうかいのしまい 扶助協会の姉妹たちと ノーブー神殿

きりとかみにんぎょうつか きょうかいはれきしものがたりわあ  
切り取った紙人形を使って、教会歴史の物語を分かち合いましょう。



ジェーン・マニング



ノーブー神殿

初期の聖徒たちは、ノーブーとよばれる場所にうつり住みました。かれらは一生涯懸命働いて、ぬかるんだ土地をきれいに整えて家を建てました。ノーブー神殿も建てました。男の人たちは石を切り、加工しました。女の人たちは食事を作り、働く人々のために服をぬい、必要な物を買うために少しずつお金を集めました。扶助協会が組織され、エマ・スミスが初代会長になりました。このころ、新しく教会に加わった会員が世界中からノーブーに集まって来ました。ジェーン・マニングは聖徒たちに加わるために、1,290 キロの道のりを歩いて来ました。

この物語を話すとき、2017年3月号のエマ・スミスの紙人形を使うこともできます。liahona.lds.orgでは、もっとたくさんの教会歴史の登場人物が見られます。



十二使徒定員会  
ロナルド・A・  
ラズバンド長老

# どうすればあかしを 強めることができるでしょうか



みたまを感じた  
ときのことを  
思い出してください。



あかしをきずいて強めるのを  
じゃまするようなことは  
さけてください。



聖文を読んで、それについて考えましょう。  
霊的な思いを日記に書きましょう。



人々に手を差し伸べて、キリストのような奉仕を  
しましょう。このようにすれば、心の奥深くに  
神の愛を感じることができます。



みなさんのあかしを家族と  
分かち合ってください。



ちゆうおう ふ じよきょうかい かいちゆう  
中央扶助協会会長  
ジーン・B・ビンガム

# 火 で 遊ばない!

「いましめを守る人を 神は守りみちびかん」  
(『子供の歌集』68)

子供のころのわたしの仕事の一つは、ごみをもやすこと  
でした。家中のごみを集めて、裏庭にある、金属のた  
るに入れて、マッチに火をつけて、たるの中に落とすのです。

ある日、とても風が強くて、マッチの火はすぐに消えてしま  
いました。そこでわたしは、新聞紙でたいまつを作ることにし  
ました。そうすれば、ほのおが長くもえて、ごみに火をつけら  
れるだろうと思ったのです。火遊びをするのはかしこいこと  
ではないということをおもい出しましたが、心に感じる警告を無  
視しました。何まいかの新聞紙を丸めて先の細いつつにし  
て、マッチで火をつけると、金属のたるの中に落としました。

ヒューツ！ 強い風のせいで新聞紙はほのおに包まれて、  
あつという間にごみに火がつかしました。大きなほのおがもえ  
上がって顔にふきつけました。幸い、ほとんどのかみの毛は  
ポニーテールにして後ろに束ねていましたが、前髪はこげて、  
ちりちりのひげのようになってしまいました。まつ毛もまゆ毛  
もなくなってしまいました。あつという間の出来事でした。

わたしは教訓を学びました。きけんなもので遊んだら、  
けがをするということです。わたしたちは両親やせいれいから、  
ポルノグラフィや麻薬などのきけんなものをさけるよう  
にと警告をあたえられています。警告の声を無視すること  
を選ぶなら、その結果を受けます。

時間がたつにつれて、かみの毛がのびたことに感謝しま  
す。それはくい改めと同じです。間違った選りを選びをしたとき  
は、変わることを選ぶことができます。わたしたちはイエス・  
キリストのしよくざいによってゆるしを得ることができるの  
です。若くても年を取っていても、救い主はいつもそこにい  
てわたしたちを助けてくださいます。ちょうど、バプテスマを



受けた日のように、もう一度平安を感じるすることができます。

天のお父様は、わたしたちを愛しておられるので、いまし  
めをあたえてくださいました。わたしたちを守り、助けたい  
と望んでおられます。天のお父様とイエス・キリストは、わ  
たしたちに何とすばらしいおくり物をあたえてくださったこ  
とでしょう！ ■

ほんとうにあったお話をもとに書かれました

「わたしたちは、自分の良心の命じるとおりに全能の神を礼拝する特権があると主張し、またすべての人に同じ特権をみとめる。かれらがどのように、どこで、何を礼拝しようと、わたしたちはそれをさまたげない。」(信仰箇条 1:11)

イレンは台湾旅行を楽しんでいました。台湾の言葉で、おじいちゃんのことを「イエイエ」とよびます。イエイエはイレンと妹のアイラを動物園に連れて行ったり、フェリーで小さな島に連れて行ったりしてくれました。マンゴーの木やランの花がたくさんあるきれいな庭にも行きましたし、山に登って、サルたちから食べ物をぬすまれそうになったりもしました。アイラはサルたちを見てもきんちょうしましたが、イレンは、サルはすごいと思いました。

イエイエは、イレンとアイラに、自分たちの先祖がどこから来たかを教えたいと思いました。親戚全員に会いに行ったり、レストランに初めての食べ物を食べに連れて行ったりしてくれました。イレンはずっと、はしを使えるように練習してきたので、とても上手になってきました。

ある日、イエイエがイレンとアイラと両親を特別な場所に連れて行ってくれました。それは大きな建物で、とびらは開かれていて、木のゆかとはびかびかにかがやいていました。みんな、そこに入る前にはくつをぬぎました。「ここではけいけんにしなければいけないのよ。わたしたちの教会と

同じようにね」とお母さんが教えてくれました。

「これは教会なの？」イレンは聞きました。これまで見たどの教会ともちがいました。その建物の屋根はカラフルで、はしが上にカーブしていました。紺色の礼服を着た人々が静かに扉を通して移動していました。

「そんなところね」とお母さんが答えました。「これは仏教のお寺よ。でも、わたしたちの神殿とはちがって、ここでは結婚式や結び固めはしないわ。イエイエの宗教の建物なのよ。イエイエはブツダの教を学んで、人々を助けるためにここに来るのよ。」

それに付け加えるようにお父さんが言いました。「1か月前、台湾で地震があったことをニュースで見たのを覚えているかい？ イエイエや、このお寺のほかのボランティアの人たちはみんな、地震がおさまった後、人々を助けたんだ。」

「何をしたの？」とアイラがたずねました。

「人々に水を運んだり、がれきを片付けたりしたんだと思うよ」とお父さんが答えました。「それから、家を失った人々が住む所を見つけられるように助けたんだよ。」

「すごいね。」イレンはそう言いながら、イエイエに笑いかけてました。「とても大変な仕事だっただろうね！」

お寺の中に入ると、イレンはとても静かで平安に満ちていることに気づきました。辺りを見回すと、大きな木像が

# かみさまのすべての子供



見えました。アイラとイレンは立ち止まって見つめました。

アイラは「これはブツダなの?」と聞きました。

お母さんはうなずきました。

イエイエはお父さんに中国語で何か言うと、両手を合わせて、ぶつぞうの前で3回おじぎをしました。

お父さんは、「イエイエはわたしたちに、ブツダに敬意をしめす方法を教えてくれているんだよ」とささやくように教えてくれました。

イレンは、まゆをよせました。「それって……?」前に聞いたことを思い出そうとしました。「ぐうぞうをおがむっていうこと?」

「仏教徒の人たちは、ブツダを礼拝しているわけではないんだよ。かれらは、偉大な教師であったブツダのぞうをおとずれて、かれの教えを心にとめようとしているんだ」とお父さんが教えてくれました。

「あれは仏教のお寺よ」と

お母さんが言いました。

「これはね、イエイエの  
信じている宗教なの。」

「人々がここでおじぎをするとき、敬意を表しているのよ。握手をするみたいだね」とお母さんがささやきました。「イエイエはブツダとその教えに敬意を表すために、おじぎをするのよ。」

「それにね」と、お母さんはイレンとアイラを抱きかかえるようにしながら言いました。

アイラは「何?」と聞きました。

「みんな神様の子供なのよ。神様はみんなを愛しておられてわたしたちが助け合うためにしていることを喜んでくださっているの」とお母さんが言いました。

イレンは、静かにすわっているイエイエやほかのすべての人々を見て心の中に温かく、良い気持ちを感じて、お母さんが言っていることが正しいと分かりました。イレンは天のお父様に短いのりをささげました。「もっとたくさんの、お父様の子供たちに会わせてくださって感謝します。」

このお話を書いた人はアメリカ合衆国ユタ州に住んでいます。

# たち



# 心やさしいイエス

キム・ウェブ・リード



ある日、イエスが人々に  
教えておられると、  
何組かの家族が、  
赤ちゃんや  
おさない子供たちを連れて  
イエスのもとにきました。  
子供たちをイエスに  
祝福していただきたいと  
思ったのです。

弟子たちは、子供たちに  
イエスのじゃまを  
してほしくないと思い、  
追いはらおうとしました。



イエスは弟子たちに、子供たちを  
ご自分のもとに来るままにしないで  
言われました。イエスは、大人も天に  
行くためには、おさない子供のような  
信仰を持たなければならないと  
言われました。



それからイエスは、子供たちをだいて、祝福されました。



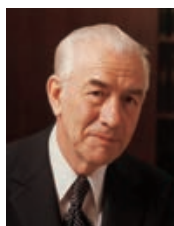
イエスは子供たちを愛しておられます。  
イエスはわたしに、すべての人々に親切にするように望んでおられます。■

ルカ 18:15 - 17 から



# わたしは親切になることができます





十二使徒定員会  
マーク・E・  
ピーターセン長老  
(1900 - 1984年)

## モルモン書 —— 驚くべき奇跡

モルモン書は最初から最後まで、啓示であり、靈感によって翻訳された書物であり、人の業ではなく神の業なのです。

わたしは、……預言者ジョセフ・スミスが神から召されたことを証し、……モルモン書が奇跡によって翻訳され、出版されたことを確信をもって宣言します。……

1823年9月22日、ニューヨーク州バルマイラの近くで、一人の神の使いがジョセフ・スミスという名の〔17歳の〕少年に、その記録が納められている場所を告げました。

……しばらくの間、この記録が実際にどのように翻訳されたのか、考えてみましょう。ジョセフ・スミスは神の賜物と力により翻訳したと述べています。……当時まだまだ無学の少年であった彼には、それ以外の方法は取り得なかったのです。……

……〔それでは〕批評家は何の根拠があって、当時少年であったジョセフ・スミスが非常に博識で、聖書から思いどおりに聖句を抜き出したり、それをあたかもモルモン書の原稿の一部



であるかのように巧妙に見せかけたりすることができたと言うのでしょうか。

ジョセフの母親の言葉によれば、若かったそのころのジョセフはまだ、聖書を読み通してはいなかったということです。それでは一体どうやって、聖書から聖句を入念に選び出し、これほどまでに適確かつ巧妙に、モルモン書に組み込むことができたのでしょうか。

若いころにまだ聖書を読み終えていなかった彼は、たとえ書いたり編集したりすることに秀でていたとしても、あれほどの編集をするだけの適確な知識は持ち合わせていませんでした。それほど若いころには、書いたり編集したりする十分な能力もなかったのです。

〔それでも〕モルモン書は文学的に

見ても宗教的に見ても傑作です。農家の少年がどれほど望もうが、あるいは能力に恵まれようが、できるものではありません。……

例えば、この書物にある救い主の美しい教えを幾つか読んでみましょう。主が聖書の預言書を引き合いに出しておられることに注目してください。イエスの言われたことを改良しようと考えた無学なジョセフ・スミスに、救い主の説教を書き直したり、〔聖書の〕断片をちりばめたりする大胆さや技巧があったとでも言うのでしょうか。

……〔ジョセフ・スミスは〕……モルモン書の内容にも、イエスの説教にも、アビナダイの優れた弁明にも、マラキヤイザヤの書にも、何一つ不正な変更を加えることはありませんでした。彼は厳密な意味で翻訳者でした。編集者でも、作者でもありませんでしたし、ましてやだれか他人の作品を盗作するような人物でもありませんでした。

モルモン書は最初から最後まで、啓示であり、靈感によって翻訳された書物であり、人の業ではなく神の業なのです。最初から最後まで、真実の書なのです。■

〔奇跡〕『聖徒の道』1978年2月号、14 - 18より



「ジョセフに教えを説くモロナイ」  
クラーク・ケリー・ブライス

1823年9月21日の夜から22日の朝にかけて、天使モロナイはジョセフに金版のことを伝えた。ジョセフはクモラの丘に行ったが、金版を取り出すことはできなかった。富を得るためにその版を手に入れたいという誘惑があったからである。モロナイは再び姿を現し、ジョセフに「主の栄光」と「闇の王子」を見せた。モロナイはこの相対する示現の目的を説明した。「あなたが後にこの二つの力について知り、邪悪な力に影響されたり打ち負かされたりしないようにするためである。」(Latter-day Saints' Messenger and Advocate, 1835年10月, 196 - 198 参照)

# 今月号のその他の記事

## ヤングアダルト

### 疑いがもたらす 危険を克服する

知らず知らずのうちに病に侵される木々のように、わたしたちの霊的な根も、疑いによって弱まってしまう。そのような試練にあって、どうしたら疑いに打ち勝つことができるでしょうか。



44  
ページ

## 青少年



58  
ページ

### 聖文 1日 10分

5人の青少年が、一日のうちで画面を見ている時間の10分を、モルモン書を読むことに置き換えたことで、生活に変化を発見しました。あなたも挑戦してみましょう!

## 子供

### 総大会で数える

総大会で預言者や使徒の話す言葉に注意をはらうために、楽しい方法があります!



66  
ページ